

令和5年昭島市教育委員会第8回定例会 議事録

日時：令和5年8月10日

午後2時30分～午後6時25分

場所：市役所 市民ホール

昭島市教育委員会

○教育長（山下秀男） 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和5年昭島市教育委員会第8回定例会を開会いたします。

本日の日程につきましては、お手元に配布のとおりであります。

初めに、日程2、前回の会議録の署名につきましては、既に調整を終え、署名もいただいておりますので、御了承願います。

次に、日程3、教育委員会会議規則第16条の規定に基づく本日の会議録署名委員につきましては、5番、眞如委員、1番、私、山下でございます。よろしくお願いいたします。

次に、日程4 教育長の報告に移ります。

今年の夏も猛暑の夏となっております。熱中症警戒アラートが、7月から既に18回発表され、熱中症による死亡の報道も複数ありました。また、沖縄をはじめ大きな被害をもたらしながら、やっと九州付近から朝鮮半島に抜けつつある台風6号、また、ここで発生して、関東地方に上陸の可能性も出ている台風7号の影響も心配されるところであります。

昨日から少し暑さが緩和しているように感じますが、台風が通過したあとの猛暑のふり返しも心配です。この猛暑は我が国に限ったことではなく、国連のグテーレス事務総長は、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代に入った」と世界に警鐘を鳴らしました。

また、新型コロナウイルス感染症は、5月8日から5類に移行となりましたが、落ち着いた新規感染者数が沖縄県で一気に増えたあと、全国に増加の傾向が広がりを見せ、既に第9波に入ったとも言われております。

大きな困難が立て続けに押し寄せる今の社会にあって、子どもたちをどのように守り、育ていけばよいのか、子どもたちにしわ寄せがいかないように、学校教育、また生涯学習の両面から私たちにできる最大限のことを精一杯実行していく必要性、教育の大切さを改めて痛感しております。子どもたちの輝く未来に向け、これからも力を合わせて教育の推進により一層邁進してまいります。

次に、公立小中学校の児童生徒ですが、今月31日までの夏休み期間を、これまでの間、事故や事件もなく無事に過ごしております。しかし、全国各地で海や川の水難事故や熱中症による死亡の報道もありました。これからの夏休み期間も子どもたちが、安全安心、無事に過ごして、元気に2学期の始業式を迎えられるよう、引き続き、学校、家庭、地域における安全配慮の連携を、機会あるごとに関係機関や団体をお願いをしているところであります。より多くの大人の目で、子どもたちを見守っていきたく思いますので、教育委員の皆様にも、引き続き、子どもたちの見守りをよろしくお願いいたします。

次に、小学生国内交流事業について、先週の土曜日から今週の月曜日まで、本市の友好都市である岩泉町の小学5年生、6年生12名が本市を訪れまして、昭島の小学6年生15名と交流し、実に4年ぶりに交流事業が復活したところであります。

今回の目玉は、何と言っても、宿泊先がアキシマンシスの講習研修室ということで、図書館のナイトツアーや追いかけっこ、かくれんぼをして大いに盛り上がり、これ一発で子どもたちはすっかり仲良くなったとのことであります。そして、翌日の日曜日には、栗田工業「クリタウォーターガッシュ昭島」の選手た

ち、外国人選手が5名、日本人選手が5名、合わせて10名の選手に指導にあたっていただき、ラグビーを体験しました。昼食は、このラグビー選手たちと一緒に昭和館のバイキング、そのあとIHIの空の未来館を見学して、盛りだくさんの体験に、皆、本当に大喜びだったと聞いております。実際に子どもたちの楽しそうな笑顔を目の当たりにして、私も大変嬉しく思いました。

岩泉町の派遣団の皆様、そして本市国内交流事業運営委員の皆様、心から感謝を申し上げます。なお、今月18日から20日までの3日間、今度は本市の小学6年生15名の児童たちが岩泉町を訪問する予定となっております。さらに交流が深められ、よい思い出をたくさん作れるよう、大いに期待をいたしております。

次に、「未来をひらく発表会」の開催についてであります。開催日時は、来月9月9日の土曜日、午後1時から市役所本庁舎1階の、ここ、市民ホールを会場に開催予定となっております。当日は、「子どもの主張意見文コンクール」と、「中学生の英語スピーチコンテスト」という内容で行います。教育委員の皆様にも、ぜひ子どもたちの発表を御覧いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

最後に、令和5年第3回昭島市議会定例会について申し上げます。現段階での予定ですが、会期は8月31日から9月29日までの30日間、初日から4日間の本会議において、一般質問等が行われ、そのあと9月7日に補正予算審査特別委員会、11日に厚生文教委員会、同委員協議会が開催をされ、19日の中日の本会議を経て、21日から決算審査特別委員会において、令和4年度の決算認定の審査が予定されております。最終本会議が29日に開催され、すべての議案が議了し閉会の予定となっております。

本日、私からの報告は以上となります。

なお、教育委員会名義の使用承認につきましては、お手元の資料のとおり、6件であります。

ただいまの報告について、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

よろしいですか。それでは、以上で日程4を終わります。

次に日程5、議事に入りたいと存じますが、本日議案としております「議案第17号 令和6年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について」は、審議に時間を要することから、議事進行の効率化を図るため、協議事項1件、報告事項7件について先行して行うこととし、最後に議案第17号の審議を行いたいと思っておりますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) ありがとうございます。

それでは、本日は、議事の順序を変更して進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

早速ですが、協議事項(1)「昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書(令和4年度分)について」事務局より説明をお願いします。

○教育総務課長（野口明彦） 協議事項(1)「昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書(令和4年度分)について」御説明申し上げます。

協議資料1を御覧ください。この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき作成するものであり、効果的な教育行政の推進を図るとともに教育委員会活動の透明性をより高め、説明責任を果たすことなどを目的としております。

なお、本日御協議をいただき、それを踏まえて議会に報告し、昭島市のホームページにて公表いたします。

点検及び評価報告書の内容についてでございますが、令和4年度の報告書につきましては、令和4年度より新たな「昭島市教育振興基本計画」となったことを受け、令和4年度の報告書から実施方法を変更いたしました。

15ページを御覧ください。第3章主要施策の点検及び評価では、「昭島市教育振興基本計画」に掲載している施策のうち、評価対象年度における主な取組と施策を選定し、点検・評価対象としています。評価対象年度における実績と課題を総括するとともに、評価基準を設け、わかりやすく記載し、次年度の取組の方向性について示すことといたしました。

また、報告書の85ページを御覧いただきたいと思っております。点検及び評価にあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなり、令和4年度は、帝京大学教職センター長の山田茂利教授、東京大学大学院教育学研究科の新藤浩伸准教授のお二人から、昭島市教育委員会の事務事業について、御意見をいただいております。

教育委員の皆様には事前に配布し、ご確認などもいただいておりますので、恐縮ではございますが、詳細な説明は省略させていただきたいと存じます。

御協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（山下秀男） 協議事項(1)について、説明が終わりました。本件に対する質疑、意見をお願いいたします。

いかがでしょうか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 全体的な内容については、一度、意見交換会の場で意見を述べさせていただきまして、それを取り入れての修正を加えていただいて、ありがとうございました。今回、外部の評価委員の先生方の御意見も入れられて、よりわかりやすくなったというふうに感じました。特に、基本施策ごとに、外部評価員の先生の評価、自己評価のまとめ、御意見が組み込まれているのは、大変読んでわかりやすいし、的確な御意見をいただけて、今後のためにとてもいい形になっているんじゃないかなと思えました。

一つ、レイアウトについて感じたことがございます。この基本施策1が終わった時点で、そのまとめと、外部評価委員による評価点検が入っているんですけども、ずっと読み進めていくと、ここがまとめであるということがちょっとわかりにくいというふうに感じました。同じ施策の中身がずっと続いているような印象を受けるので、ちょっと、ここがまとめである、基本政策1の終わりであると

ということがわかるような表記を工夫していただけると、読みやすく、わかりやすくなるかなと思ひまして、「まとめ」というふうに入れるとか、あるいは、バーが全部同じブルーで、字体も同じなので、例えば、ここがまとめであるということがわかるように、バーの色を変えるとか、何かそういうふうには、このページは違うんだよということをお知らせできるようにしていただけるといいかなと。続きのなかなみたいにおもってしまうので、というのが感想です。

それから、1点だけ、ちょっとたまたま見つけて、これは誤字だなとおもったんですけども、24 ページの一番上の、「今後の取り組みの方向性」のところの「共成社会」というところがこれは共成小学校の元保護者としては大変嬉しい共成なんですけれども、これは多分、字が違ふかなというふうにおもいました。

そして感じましたのは、外部評価委員の先生方の御意見で、なるほどこれはそうだなとおもったことが2点ございますので、それだけ申させていただきます。

1 点目は、18 ページの理数教育の充実における地域資源の活用をもっと充実したほうがいいというところで、全く本当にそれはそうだと思うんですけども、学校の先生方も大変であるということと、あと授業をよりよくしていくために、例えば理科の栽培の学習とかだったら、もっと地元の農家の人に指導員として協力していただくとか、学級園の作り方とか、そういうもののアドバイスをもらうとか、あと、昭島にはとても優れた技術を持った工場、研究所も多数ありますので、そういうところの力もたくさん授業の中に借りられるといいなというふうにおもいました。

先日、たまたま NHK の「アニマルドック」という生き物が関係する番組を見たら、昭島の理学研究所の X 線で、動物の胃の筋肉の厚みを計測しているという番組がたまたまやっています、こういう所も昭島にはあるんだということをお知らせを、ぜひお子さんにも知ってもらいたいですし、そういう所の方の力も借りていけばいいんじゃないかなというふうにお感じしました。

あともう1点は、30 ページに、基本施策 2 の外部評価委員の方の意見が載っていますけれども、最後から4行目の福祉の心を育てるボランティア活動などについて特別活動のキャリア教育の位置づけというふうにありますけれども、本当にボランティア活動というものを、昭島の子どもたちは実はいろいろやっています、お祭りの手伝いとか、たくさんやっているとのおもいますけれども、教育活動の中で、そのボランティア活動というのが、きちんと位置づけされていたかなというところ、ちょっとそこは、もしかして見過ごしていたかなと、道徳とかいろいろな所にちりばめられていたとおもいますけれども、これは一つちゃんと位置づけてもいいんじゃないかなというふうにお感じしました。キャリア教育でもありますし、自己肯定感を育てていくということにも、こういうボランティア活動というのとはとても大きな力を持っているものだと思いますので、そこを今後考えていったらいいのではないかなと思ひました、例えば、社協で、夏ボラとかやっていたよね、結構意識の高いおうちは、そういうところにお子さんをたくさんチャレンジさせようとしたりとかしているとおもいますけれども、あと学校でとかでも声掛けしていただくとか、そういうのを皆で取り組んでいこうみたいな、そういうことも考えられるんじゃないかなというふうにおもいます。

すみません、この中身に関しますけれども、評価報告書としてはこれでいいん

じゃないかなというふうに思いました。
以上です。

○教育長（山下秀男） 御指摘いただきましてありがとうございます。

○教育総務課長（野口明彦） 御指摘ありがとうございます。まず、施策ごとの切り分け、次の所に進むと、というところが、わかりづらいということにつきましては、わかりやすくなるような形で工夫をしてみます。また誤字につきましては、大変申し訳ございません、修正をさせていただきます。

○教育長（山下秀男） 指導主事。

○指導主事（水谷延広） 理数教育につきましては、御指摘をいただきましてありがとうございます。地域の人材を活用した取り組みということで、昨年、中学校で地元の企業と連携して、理科の時間に企業の持っている技術、工作に関わっている技術を活用して実際工作を体験したりとか、できた工作物を実際に動かして実験してみるとというようなことで連携の取り組みとして行ったということがあります。昭島市教育委員会としましても、そういった地域の人材をこれから活用して、理数教育の発展に資するものにしていきたいというふうに考えております。

○教育長（山下秀男） 統括指導主事。

○統括指導主事（田中晴恵） 御指摘ありがとうございます。小学生も中学生も地元のお祭りなどが開かれると、そこに自治会の一員として、参加をしてお手伝いをしているという現状がございます。そちらのほうをどのように教育活動に位置づけていくかというのは、こちらのほうでも検討をして進めていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 報告書の修正点についての一覧表も御送付いただきまして、すごくわかりやすくありがたかったなと思っております。

先ほど、紅林委員ほうからありました施策ごとの外部評価委員によるという、あそこのコーナーのことなんですけれども、私もちょっと一連の流れの中で読み進んでいってしまうのでわかりにくいなど、先ほど御回答がありましたので、ぜひそこにちょっとレイアウトを変えていただけるとよろしいのではないかなということを感じました。

それから、第4章の所に外部評価委員からの意見というのがありまして、各施策ごとに掲載されていたものが、第4章にも再掲載ということで、そのとおり文が載っているわけなんですけれども、これはすごく丁寧でいいなと思うんです

が、ダブって載せるというのはどうなのか、私はこういう報告書、じっくりほかの物を見たことがないのでよくわからないんですけども、場合によっては再掲載せずに、項目と、どこにそれが載っているのかということの表示だけで、再掲載をしないという方法もあるんじゃないかなと思いますので、ちょっと御検討いただけたらありがたいなと思います。

それ以外につきましては、この報告書で結構だと思います。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにはございますか。

よろしいですか。今回、この点検評価報告書を改めましたが、まだまだ工夫改善の余地があるかと思えます。今いただきました御意見等を基に、よりよい報告書の作成に努めていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

ほか、ないようですね。お諮りしたいと思います。本件について原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） 異議なしと認め、本件は原案のとおり承認することに決しました。以上で協議事項(1)を終わります。

次に、報告事項に入ります。

初めに、報告事項(1)「令和6年度昭島市給付型奨学金制度の奨学生の募集について」事務局より説明をお願いします。

○学務担当課長（横山学） 報告事項(1)「令和6年度昭島市給付型奨学金制度の奨学生の募集について」御報告いたします。お手元の資料を御覧ください。

まず、1の制度の周知でございますが、市の公式ホームページ及び広報あきしま8月1日・15日合併号に掲載するほか、5月に市立中学校の3年生全員に募集要項を配布した上で、1学期終業式前に改めて募集に関する案内文を3年生全員に配布いたしました。なお、7月中旬に各中学校に願書を配布しております。

次に、2の制度の内容でございますが、昨年度の条例改正により、募集人員は10人から15人。給付額は、入学準備金は6万円から8万円、奨学金は月額1万5千円から2万円に拡充しています。奨学金については、7月に6カ月分12万円、10月及び1月にそれぞれ3カ月分6万円、合計24万円を給付いたしますが、東京都の制度に該当する方は、東京都の制度による給付額相当分を控除した金額を給付いたします。

次に、3の出願要件でございますが、高等学校等に進学し、引き続き在学していること、保護者が令和5年4月1日から市内に住所があること、世帯収入が就学援助制度の認定基準を満たしていること、学業成績及び生活態度が良好で在籍校の校長の推薦があることといった要件を満たしている必要があります。なお、学業成績の要件は、特別支援学級の在籍者については校長の推薦があれば足りませんが、ほかの方は、5段階評価による成績評定で全教科の平均値が3.5以上であること、または5の評定の教科が一つ以上あることのいずれかを満たしている必要があります。

最後に、4の今後のスケジュールでございますが、9月1日から9月15日まで願書を受け付け、10月12日に選考委員会による候補者の選考を行い、10月の定例教育委員会で奨学生決定に係る御審議をいただいた上で、11月に出願者へ選考結果を通知する予定となっております。

報告は、以上でございます。

○教育長（山下秀男） 報告事項(1)について、説明が終わりました。本件に対する質疑、意見をお願いいたします。

よろしいですか。特にないようですので、以上で報告事項(1)を終わります。

次に、報告事項(2)「特別支援学級用教科用図書（一般図書）に係る報告した図書の変更について」事務局より説明をお願いします。

○統括指導主事（田中晴恵） 特別支援学級教科用図書（一般図書）の変更について、御説明いたします。

本件につきましては、本来、昭島市立小学校及び中学校使用教科用図書採択要綱に基づき、教育委員会において議決いただく事項でございます。しかしながら、当該学級在籍生徒への無償給与の時期に遅れが生じている状況から、緊急に処理を行う必要があったため、昭島市教育委員会教育長に対する事務委任規則第1条第7項、教科用図書の採択に関すること及び第2条第1項に基づき、教育長が臨時に代理し、本教科用図書を採択したことを御報告いたすものでございます。

変更する教科用図書とその理由でございますが、令和5年1月19日に開催された教育委員会定例会において、特別支援学級用教科用図書として報告された、多摩辺中学校8組の第1学年が保健体育の教科用図書として使用する予定であった1冊が対象でございます。

在庫不足や絶版を理由に供給が困難である供給不能図書に該当したため、代替となる教科用図書に変更した図書について、通常の学級でも使用している文部科学省検定済み図書とあわせて給与される副読本ととらえていた図書は、別途購入が必要となる副読本でございました。

そのため令和5年1月19日に開催された教育委員会定例会にて御報告した図書は、通常の学級においても使用している文部科学省検定済み教科書と報告していたため、修正し報告するものでございます。

別紙の新旧対照表を御覧ください。表の左側が1月に御報告した一般図書、右側が今回採択した一般図書でございます。

報告は、以上でございます。

○教育長（山下秀男） 報告事項(2)について、説明が終わりました。本件に対する質疑、意見をお願いいたします。

いかがですか。よろしいですか。

特にないようですので、以上で、報告事項(2)を終わります。

報告事項(3)「みほり体育館床改修工事等実施に伴う休館について」事務局より説明をお願いします。

○生涯学習部長（磯村義人） みほり体育館床改修工事等実施に伴う休館について御説明いたします。

みほり体育館は、平成10年に供用を開始し、地域の体育施設として多くの市民に御利用いただいておりますが、床面の劣化が進み、床面のささくれも出てきたため不測の事態を未然に防ぎ、施設を安全・安心にご利用していただくため、床改修工事を実施いたします。また、あわせて空調機器設備工事実施する予定でございます。

工事に伴う休館期間は、11月1日から令和6年6月30日を予定しております。なお、休館期間中は、キオスク端末のご利用もできなくなります。

周知方法は、市広報及び市公式ホームページに掲載のほか、総合スポーツセンター及びみほり体育館にお知らせを掲示いたします。

説明は以上でございます。

○教育長（山下秀男） 報告事項(3)について、説明が終わりました。本件に対する質疑、意見をお願いいたします。

よろしいですね。

特にないようですので以上で、報告事項(3)を終わります。

次に、報告事項(4)「市民図書館主催事業について」事務局より説明をお願いします。

○アキシマンシス管理課長（岩波聡） 報告事項(4)「昭島市民図書館主催事業について」御説明いたします。

1、大人の塗り絵講座です。

河出書房新社の大人の塗り絵シリーズを教材に、簡単な色彩学、画材の使い方、塗り絵の楽しみ方を身に付けていただけます。

9月23日、土曜日の午後1時から3時まで、やまのかみ会館、集会室でサクラクレパス認定大人の塗り絵講師を招いて開催します。定員は15名で、9月2日土曜日から多数抽選で受け付けます。参加費は無料です。

2、高齢者向け講座～身体をつかって楽しく「脳活」シナプソロジー講座です。

体の左右で違う動きを行うなどして、認知機能をつかさどる脳や運動に関係した脳を活性化させる方法を学びます。

9月24日、日曜日の午後2時から3時30分に、アキシマンシス国際交流教養文化棟 講習・研修室1、2で、佐々木夏子氏を招いて開催します。定員は35名、8月24日、木曜日から多数抽選で受け付けます。参加費は無料です。

なお、事業の問い合わせ先は、市民図書館、042-543-1523となっております。

説明は以上でございます。

○教育長（山下秀男） 報告事項(4)について、説明が終わりました。本件に対する質疑、意見をお願いいたします。

よろしいですか。特にないようですので以上で、報告事項(4)を終わります。

次に報告事項(5)「昭島市公民館主催事業について」事務局より説明をお願いします。

○市民会館・公民館長（立川豊） 報告事項(5)「昭島市公民館主催事業について」御説明申し上げます。

お手元の資料5を御覧ください。事業が三点ございます。

1点目は昭島市民大学公開講座で、「昭島 まちの形成史-明治からの変遷を知り明日の昭島を考える-」です。こちらは第10期市民大学歴史コースを修了された方達が企画運営をしております。明治から現在まで昭島市がどのようなまちづくりをしてきたか、そしてこれからどのように都市計画をすすめていくのかについて学びます。日時は令和5年8月26日から9月28日まで、会場は公民館学習会議室で計5回開催いたします。

2点目は「安心して生きるために いざという時の備えを」というテーマで講座を行います。困ったときに相談できる組織や、受けられる支援の内容について学習いたします。日時は8月31日から10月5日まで、会場は公民館学習会議室で計5回開催いたします。

そして3点目は社会文化セミナー、「パパ&ママのための夫婦会議のすすめ」でございます。妊娠から出産、育児に至る時期は夫婦のすれ違いが起きやすいと言われております。それを乗り越え、よりよい家庭環境を作り出していくためには夫婦の対話が重要です。夫婦会議をするうでのテーマやポイントを講師の方から御紹介していただきます。なお、こちらはオンラインによる開催となっております。募集のほうは行っているところですが、まだ余裕があるとのことでございます。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） 報告事項(5)の説明が終わりました。本件に対する質疑、意見をお願いいたします。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 図書館でも公民館のほうでも、いろいろな事業を計画してくださって、自身としまして大変ありがたいなと常日ごろ思っております。

今日、いただいた資料を拝見しますと、図書館のほうは、多い場合には抽選しますよということがうたわれていまして、公民館の場合には、先着申し込み順というふうになっています。これというのは、図書館のものは抽選で、公民館のものは申し込み順と、大雑把なくくりみたいなのはあるのでしょうか。オンラインはまた別なんですけれども。

それで両方とも、申し込み順の講座なんですけれども、両方とも申し込みが8月3日からになっていまして、実は私も申し込んだんですが、電話がなかなかつながらなくて、何回かけたかわからないぐらいでやっとながったという状況がございましたけれども、なかなかつながらないなと思って、日にちをあけてしまうと、もういっぱいですということになってしまったりするので、もし申し込み順で行うのであれば、二つ講座が同じ日に申し込みが開始ではなくて、一日ずらしていただいだけでも、電話が殺到するのが防げるかなと思いますので、そちら

辺をお考えいただければありがたいです。以上でございます。

○アキシマンシス管理課長（岩波聡） アキシマンシス管理課で、こちらの事業を用意してございますが、両方とも今回たまたま多数抽選になっております。こちらに関しましては、もともと人気が高いとわかっておりますので、申し込みをとにかくいただいた上で、抽選で皆さんに平等にいきわたるような形で、というふうに考えて、多数抽選としているものでございます。

以上です。

○市民会館・公民館長（立川豊） 申し込み順にするか、多数抽選にするかにつきましては、基本的に企画運営をしていく中で、いろいろ講師の方を交えて、どうやって設定していこうかというところの話をしております。具体的にこの場合には、申し込み順にする、この場合には多数抽選にするといったところは、きちっとした区別ができていない状況ではございます。ただ、委員がおっしゃられたように、申し込みのお電話をしてくださって、なかなかいっぱい電話がつながった時にはいっぱいですといった御意見を確かにいただいております。その辺につきましては、先ほど御指摘いただきましたように、申し込みの日をずらすとか、あるいは申し込み順のところを多数抽選、その辺が可能なかどうか協議した上で、今後、対応していければと思っております。よろしく願いいたします。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。
氏井委員、よろしいですか。

○委員（氏井初枝） はい、よろしく願いいたします。

○教育長（山下秀男） ほかによろしいでしょうか。それでは、以上で報告事項(5)を終わります。

次の、報告事項(6)「第70回昭島市民体育大会「自治会ブロック別大会」日程表」及び(7)「拝島日吉神社の榊祭の開催について」の2件につきましては、資料配布のみとしておりますが、御意見等あれば、発言をお願いいたします。よろしいですか。

報告事項は、以上となります。

ここで議案に入る前に暫時休憩といたします。再開時間はおおよそ10分後の2時20分からにしたいと思っております。よろしく願いいたします。なお説明員につきましては教科用図書の採択に係る職員と入れ替えをいたします。

（ 暫時休憩 ）

（ 再 開 ）

○教育長（山下秀男） それでは、会議を再開します。

議案第17号「令和6年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について」を議題といたします。初めに、事務局より提案理由の説明をお願いします。

○統括指導主事（田中晴恵） 議案第 17 号「令和 6 年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択」につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、来年度、使用する教科用図書について採択をお願いするものです。

その内容といたしましては、初めに小学校の通常の学級で使用する教科用図書でございますが、「昭島市立小学校及び中学校使用教科用図書採択要綱」に基づき校長、副校長、学識経験者、保護者代表からなる「昭島市立小学校教科用図書選定資料作成委員会」を設置し、調査研究部会において実施した調査研究を基に参考資料 1 としてお配りしている「令和 6 年度使用 昭島市立小学校教科用図書選定資料作成委員会 調査結果報告書」を作成し、提出していただきました。

また、市役所と図書館において教科用図書の展示を行い、市民の皆様からあわせて 23 通の意見をいただきました。意見の内容につきましては、委員の皆様には事前に配布をさせていただいております。

これらの資料などを参考にいただき採択をお願いいたします。

なお、本日は、小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長及び調査研究部長である校長の皆様が出席しておりますので、報告書の概要について、御説明申し上げます。

次に、特別支援学級で使用する教科用図書の採択について、御説明いたします。学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書は毎年採択を行うことができるため、「特別支援学級使用教科用図書の採択に関する要綱」に基づき採択を実施するものです。

その際、固定制の特別支援学級設置校である共成小学校、つつじが丘小学校、田中小学校、富士見丘小学校、昭和中学校、多摩辺中学校、清泉中学校に設置しました特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会において調査研究を行い、提出された報告書を参考に採択をお願いいたします。報告書は参考資料 2 となります。

なお、固定制の自閉症・情緒障害特別支援学級である富士見丘小学校と清泉中学校につきましては、通常の学級に準ずる教育課程を編成しているため、教科用図書につきましては、すべて通常の学級と同一の教科用図書を使用するとの調査御報告をいただいております。

したがいまして、本日は知的障害特別支援学級設置校の特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会の委員長である校長、主任教諭の皆様が出席しておりますので調査結果報告書について、それぞれ御説明いただくこととしております。

また、特別支援学級を除く中学校で使用する教科用図書につきましては、令和 3 年度より使用している教科用図書を継続使用する予定です。

提案理由の説明は、以上でございます。

○教育長（山下秀男） 説明が終わりました。ただいまの説明にありましたとおり、本日は教科用図書選定資料作成委員会委員長及び調査研究部長、知的障害特別支援学級設置校の校長、主任教諭の皆様に出席していただいておりますので、初めに、校長の皆様からの各調査研究報告書の内容についての報告を受けたあと、質疑応答を行う順に進めたいと思います。

それでは、小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長、並びに調査研究部長である校長の皆様を事務局より紹介してください。

- 統括指導主事（田中晴恵） それでは、本日御出席の校長の皆様を御紹介します。
小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長の玉川小学校、小川校長です。
- 玉川小学校校長（小川広樹） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 続きまして、各調査研究部会の部長の御紹介をさせていただきます。
国語・書写調査研究部長の拝島第三小学校、小原校長です。
- 拝島第三小学校校長（小原弘樹） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 社会・地図調査研究部長の拝島第二小学校、小瀬校長です。
- 拝島第二小学校校長（小瀬和彦） こんにちは。
- 統括指導主事（田中晴恵） 算数調査研究部長の成隣小学校、松川校長です。
- 成隣小学校校長（松川靖弘） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 理科調査研究部長の東小学校 鈴木校長です。
- 東小学校校長（鈴木正樹） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 生活調査研究部長の拝島第一小学校、鵜川校長です。
- 拝島第一小学校校長（鵜川雅行） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 音楽調査研究部長の武蔵野小学校、大河原校長です。
- 武蔵野小学校校長（大河原博） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 図画工作調査研究部長の富士見丘小学校、稲垣校長です。
- 富士見丘小学校校長（稲垣達也） よろしくお願いたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 家庭科調査研究部長のつつじが丘小学校、大友校長です。
- つつじが丘小学校校長 よろしくお願いたします。

- 統括指導主事（田中晴恵） 体育調査研究部長の光華小学校、眞砂野校長です。
- 光華小学校校長（眞砂野裕） よろしくお願ひいたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 英語調査研究部長の中神小学校、松井校長です。
- 中神小学校校長（松井茂） よろしくお願ひいたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 道徳調査研究部長の田中小学校、星野校長です。
- 田中小学校校長（星野典靖） よろしくお願ひいたします。
- 統括指導主事（田中晴恵） 以上でございます。
- 教育長（山下秀男） 小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長並びに各教科調査研究部長をお務めをいただきました校長の皆様には、改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。
- それでは早速ですが、調査結果報告書の説明を受け、そのあと質疑に入りたいと思います。
- 初めに、小学校教科用図書選定資料作成委員会における審議の経過について、委員長の玉川小学校、小川校長より報告をお願ひいたします。
- 玉川小学校校長（小川広樹） 私からは、これまでの教科用図書選定資料作成委員会の経過と全体を通しての説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。
- 5月12日に第1回教科用図書選定資料作成委員会を開催し、採択事務や調査研究について確認をいたしました。
- 5月22日の調査研究部会説明会のあと、各小学校に教科用図書の巡回展示をするとともに、各教科の調査研究部会において教科用図書の調査研究を行い、報告書の作成を行いました。
- そして、7月6日に第2回、7月14日に第3回教科用図書選定資料作成委員会を行い、調査研究部会から調査研究の結果報告がございました。
- 調査研究項目は、「内容」と「構成上の工夫」に分けて、教科ごとにA3用紙1枚にまとめております。なお、市民からの意見につきましては、事務局から報告がございました。
- 調査研究部会からの報告及び市民からの意見を参考に報告書について審議を行い、教科用図書選定資料作成委員会としての報告書を作成しました。
- 以上でございます。
- 教育長（山下秀男） ありがとうございました。
- それでは、各教科の調査結果についての報告を、順次、お願ひしたいと思います。

なお、質疑応答につきましては、最後に一括して行うことで、委員の皆様よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) ありがとうございます。それでは、初めに国語・書写の調査研究部長の小原校長、お願いいたします。

○拝島第三小学校校長(小原弘樹) それでは国語について報告させていただきます。時間の関係で、特徴的な部分のみ紹介させていただきます。

まず、内容の2「内容のおさえ方に対する配慮について」です。

東書は思考ツールを使って例を示し、考えを深めさせる手立てとなっています。

教出、端末のブログで学習したことの振り返りができます。

光村です。説明文の単元の最初に練習のページがあり、学びをいかせる構成になっています。

続いて、内容の5「昭島市の地域性に適しているか」。昭島市の地域性をアクションシスに向かわせるということで考えてみました。つまり図書館に向かわせる。図書、本を好きにさせる、子どもを作るためにはどうしたらいいのかという観点で見ました。

東書、様々な本を紹介することで読書に親しむことができるようなページがあります。

教出、読書活動につながるように、何年で読みたい本が巻末に掲載されています。また、読書の広場では、本の紹介、図書室の使い方等が掲載されています。

光村、各学年に読書の楽しさや、図書館利用の仕方を紹介している単元があります。そして、昭島市の地域性として、昭島市、大きな道がありますので、教出、光村、1年生で自動車を扱った単元があり、昭島市の地域性に適していると考えられます。

続いて、構成上の工夫①「内容の組織配列及び発展的な系統に対する配慮」です。どの出版社の既習事項の確認ができております。

教出では4年生、「木童うるし」という単元で人形劇の台本から、登場人物の性格や気持ちの移り変わりを読み取らせる教材を扱っています。特徴的な教材だと思います。

構成上の工夫の5「学習活動に対する配慮」、どの出版社のペア学習、それから、班学習について考えられており、対話を通して学びを深められるような構成になっています。

備考です。東書、光村については、1年生から4年生まで、上巻と下巻に分かれており、5、6年生が1冊にまとまっています。教出の場合は、全学年、上下巻に分かれています。

国語科からは以上になります。

○教育長(山下秀男) 次に、書写を続けてお願いしたいと思います。

○拝島第三小学校校長（小原弘樹） では、書写を御覧ください。

内容の1です。「児童の発達段階に対する配慮発表に対する配慮」。

東書、めあてや振り返りが、発達段階に応じて明確なものになっています。

教出、トン、スー、ピタとオノマトペを活用した筆遣いや姿勢のポイントが示されています。

光村、低学年では、イラストや写真が多く使われています。

続いて、内容の3です。「教科の特質に即した要点や考え方などに対する配慮」。

東書、書写の鍵によって、文字を書く際のポイントがわかります。

教出、各文字のポイント絵や色で示しています。

光村、字の組み立ての説明では、キャラクターが補助的な役割を果たしています。

続いて、内容の5「昭島市の地域性に適しているか」。ここでは、地域との関わりを昭島市の特性と考ました。

東書の場合、インタビューや、メモなどのお礼の手紙を書く、それから、地域との関わりを持つための単元が設定されています。

教出、学習発表会の案内状やお店見学のお礼の手紙、それから、他教科と地域との関連を意識した単元が設定されています。

光村、メモやお礼など、日常生活や、地域との関わりを持つための単元が設定されています。

続いて、構成上の工夫2です。「各領域の分量に対する配慮」。これは、どの出版社の適切な分量と判断しました。

構成上の工夫4です。「全体の構成が見通せるような配慮」。

東書の場合は、学びの観点が色別で示されています。

教出、教室学習の進め方というところを見れば、進め方がわかるようになっています。

光村、目次が見開きで掲載されています。

書写からは以上になります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、社会科の説明をお願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） はい。それでは、社会科の内容について報告します。

社会科は、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社です。

まず、社会科、3社に共通している今回の教科用図書の特徴について説明をします。次に、3社について、それぞれ特徴的なところに焦点をあてて説明をします。

まず、3社に共通している社会科の教科用手書のポイントは3点あります。第1点は、報告書の内容③を御覧ください。3社とも、社会科の特質として、社会の見方、考え方を踏まえ、問題解決的な学習過程に即して学習が展開されています。また、単元ごとに学習問題が設定され、小单元ごとに問いが投げかけられて

います。

東京書籍を例にとると、単元ごとに学習問題、例えば5年生では、庄内平野で米作りに関わる人々はどのような工夫や努力をして米を生産していくのでしょうか、という学習問題が設定され、小単元ごとに農家の人々は米作りをどのように進めているのでしょうか、米作りの仕事についてどのような工夫や努力をしてきたのでしょうか、と問いが投げかけられていて、めあてを明確に持ってスモールステップで学べるようになっています。

第2点は、報告書の構成上の工夫②を御覧ください。3社とも単元ごとに内容の重点化が図られ、十分な調べ活動や話し合い活動ができるように配慮されています。

教育出版で例にとると、6年、政治の働きについて学んだことを生かす場面が設定されています。

市が行った住民への意識調査の結果などを見ながら、まちづくりに提案してみたいことをグループでまとめ、子ども議会で話し合うという場面が設定されています。

第3点は、報告書の構成上の工夫③を御覧ください。

教材等の事例についてですが、3社とも学習指導要領の各学年の内容の取り扱いに示されている範囲の中から取り上げられています。日本文教出版で例にとると、5年、様々な土地の暮らしでは、「温かい土地の暮らし」の事例地として沖縄県が、「寒い土地の暮らし」の事例地として北海道が取り上げられており、どちらかを選択できるようになっています。

また、「低い土地の暮らし」では岐阜県海津市が、「高い土地の暮らし」では群馬県嬭恋村が取り上げられており、どちらかを選択できるようになっています。

次に、各社の特徴的な点について説明します。まず、「新しい社会」の東京書籍ですが、構成上の工夫④を御覧ください。

東京都の教科書は、各学年とも教科書の応答、見開き2ページのうち、左側に全学年、前の学年で学習した内容が配置され、右側ページで当該学年、これから学習する内容の見通しが持てるよう、単元名と吹き出し、事例地の写真が掲載されています。

つまり、今回、学習指導要領のポイントの1つである見通しと振り返りがしっかりと同じような構成になっています。

次に、「小学社会」の教育出版ですが、構成上の工夫①を御覧ください。問題解決的な学習に即して、使う、調べる、まとめる、つなげるという段階で構成されています。特に、使う段階に、学習問題を作るだけでなく、学習計画を立てると位置づけられているところに特徴がございます。

最後に、「小学社会」の日本文教出版ですが、同じく構成の工夫①御覧ください。

各学年とも、各単元の学習を発展的学習として、もっと詳しく調べておきたいことが、気になったことをSDGsと関連づけて「未来につなげる私たちのSDGs」と題したページが設定されています。

報告は以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、地図の説明をお願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） 地図の内容について御報告いたします。

地図は、東京書籍と帝国書院の2社です。まず、2社に共通している今回の教科用図書の特徴について説明して、続いて、各2社について、それぞれ特徴的なところに焦点をあて説明をいたします。

まず、今回、教科用図書2社に共通している地図帳の特徴は3点ございます。

第1点は、報告書の内容の①を見ていただけるとおわかりになるかと思いますが、2社とも3年生からの事実上の指標を踏まえ、大きなイラストでの導入、方位、記号などの地図の決まり、作品や縮尺などの地図帳の使い方について段階的に指導できるようになっています。

ちなみに、東京書籍では地図の決まりや使い方に8ページ、帝国書院で14ページで構成しています。

第2点は、報告書の内容の②を御覧ください。2社も特に主題図に注目しました。

東京書籍は67ページから82ページ、帝国書院は95ページから110ページになります。

日本の地形、気候、自然災害と防災、産業、貿易等の主題図は、ビジュアルでわかりやすく、情報を相互に比較、関連づけるなど、思考がしやすい構成になっております。

第3点は、報告書の構成上の工夫⑤を御覧ください。随所に設定されたコーナーにおいて、多様な問いと学習活動に取り組むことができるようになっています。

東京書籍では、「ホップ・ステップ・ジャンプ」というコーナーで、ポイント、学習活動などが設定されています。

帝国書院では、「地図マスターへの道」というコーナーでポイント、学習活動などが設定されています。

最後に、各社の特徴的な点について説明をします。

まず、「新しい地図帳」の東京書籍ですが、構成上の工夫③を御覧ください。日本の歴史的事象を世界との関わりで捉えられるテーマ図が設定されています。例えば、8世紀では遣唐使と鑑真の航路がアジアの地域で示され、また、13世紀後半の元寇では、日本に進攻してくるコースがユーラシア大陸に示されています。さらに19世紀後半の岩倉使節団では、その経路が世界地図の中に示されるなど、歴史的事象、世界との関わりの中で捉えられるような設定になっています。

最後に、「小学生の地図帳」帝国書院ですが、構成上の工夫①を御覧ください。広く見渡す地図160万分の1の地図が、10ページで構成され、それぞれの都道府県の特産品等がイラストでわかりやすく掲載され、3年生に親しみやすいものになっています。

また、「広く見渡す地図」に続く「日本の各地方を見る地図」は、原則として

縮尺 100 万分の 1、50 万分の 1 で統一されているので、地域の様子を比較しやすい設定になっております。

報告は以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、算数の説明をお願いいたします。

○成隣小学校校長（松川靖弘）（松川靖弘） 算数調査研究部会では、主に問題解決的な学習の流れになっているか、数学的な見方、考え方を働かせて意見を交流することなど、学べる学習に関する対応、そして幼保小の接続、小中の接続について、この 2 点について御報告させていただきます。

まず、どの教科書も、6 社についてですけれども、どの教科書も大変工夫されておりました。特徴的なこととして、内容③を御覧ください。各社とも数学的な見方、考え方を児童が捉えることができるように、大変工夫してあります。

東京書籍では、単元末に「つないでいこう算数の目」というコーナーを設けていて、学習した数学的な考え方を振り返り、生活や次の学習に生かす態度を育成できるようになっています。

大日本図書では、2 年生、第 2 学年以降の巻末に算数の大切な考え方として、数学的な見方や考え方をキャラクターとともにまとめてあり、それを各単元の学習で登場するようになっています。そういう構成になっています。

学校図書においては、巻頭に考え方モンスターというキャラクターとともに、数学的な見方、考え方を紹介するページがまずあり、各単元末には、その各単元で活用した数学的な言い方、考え方を振り返る、そういうコーナーが設けてあります。

教育出版においては、巻頭に数学的に向けた考え方を紹介し、単元末には学習を通して活用した考え方をこの 4 コマ漫画で振り返るといったコーナーが設けてあります。

啓林館では、児童が主体的、対話的に学習しているその様子をキャラクターの発言とともに掲載し、その数学的な見方や考え方を紹介する構成になっております。

日本文教出版では、既習事項から学習の問題解決の解決を維持させるなど、学習過程を丁寧に示しながら、登場するキャラクターの発言を通して児童に数学的な見方な考え方を促しています。

続いて、内容①のところには、幼保小の接続、小中の接続についてまとめてあります。

第 1 学年の小学校生活入門期においては、東京書籍、大日本図書、啓林館の関のように、A4 の大きさで、中綴じの教科書が児童が開きやすく、グラフなどを、教科書が置きやすいという意見がありました。

教育出版の 1 年生にある生活科との効果的な扱いについても、興味深いという意見がありました。

中学校への接続については、各社とも、6 年生の巻末に 6 年間のまとめ、そして発展の練習問題が用意されております。

学校図書においては、中学校への架け橋という別冊が用意されておりました。以上で報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、理科の説明をお願いいたします。

○東小学校校長（鈴木正樹） 理科で学ぶべきことについて御説明いたします。

内容の1ですが、どの出版社も既習事項との結びつけがしっかりと書かれておりました。

内容のおさえ方に対してですが、どの出版社においても確かめようと振り返ろうという形で、しっかり抑えをされておりました。中には考察を書く時の視点であったり、考察を書く時の模範例が示されているような違いもありました。

内容の3です。どの出版社も表現の仕方は違うんですが、問題、予想、実験、結果、を結論というような流れになっておりました。考察とか結論っていう表記を使っている場所もありますが、そうではないんですが、内容的には同じというものが各社ありました。

内容の⑤です。昭島市の地域性に適しているかというところで、5年生の流水のところ、多摩川が、どこの出版社でも出てくるんですが、扱い方に関して、学習の中で扱っているものであったり、コラボとして出てきたりとか、発展学習の中で出てくるというような違いが各社ありました。

SDGsの中で取り扱っている大日本は、6年のSDGsのところでは取り扱っている違いがありましたが、どこの出版社も多摩川について触れているのが昭島市の地域性に適しているというところで話の中で見つけられました。

構成上の工夫です。構成上のところでは、SDGsとの関連というところで比較をしたんですが、どこの会社も関連づけてはいるんですが、解説に複数ページを割いていると、出版社が、大日本とか学校図書とか教育出版のところはすごく細かく丁寧に書いてあるので、非常にわかりやすいなっていうような違いがありました。

構成上の工夫の⑤です。ここではプログラミングについて比較をしたんですが、プログラミングについても、体験であったりとか、実際にわかりやすく、ページを複数割いている出版社と、そうでない出版社との違いがありました。上に明記してあるようになっております。

あとは、理科と算数科のつながり、ページを割いてあったり設けてあるっていうところについても視点を当てて比較したところ、以上のようにしております。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、生活科の説明をお願いいたします。

○拝島第一小学校校長（鶴川雅行） はい。生活科部会の報告をさせていただきます。市内5名の委員として各教科書の決定を行い表にまとめました。

委員の意見としては、6社の教科書ともに考えられていて、子どもたちの豊かな活動を支える環境になっている。また、子どもたちは様々な気付きを出すことができるというような意見がありました。

それぞれに特徴があり、各社、よかった点がありますので、それについて本日御報告をさせていただきます。

東京書籍、内容②内容のおさえ方に対する配慮、観察カードがあり書き方のポイントも示されていて、非常に活動しやすい。また、まとめ方が多様な方法でできるように紹介されていて、子どもたちの初めての学習に対して、こういうふうにとまとめていけばいいかなってということがわかりやすく示されていました。

大日本図書、内容③評価特質に即した要点の考え方などに対する配慮、気持ちマークという部分があり、児童が振り返ること、きっかけになることができるように作られていました。

構成の⑤学習活動に対する配慮、巻末に学習の道具箱という手引きがあり、それを見ると非常に子どもたちが安心して活動ができるというようなものになっておりました。

学校図書、内容①児童の発達段階に対する配慮、4人の登場人物が設定されていて、その書き出しを読むとイメージがしやすく、子どもたちが、ああ、こういう活動をして、こういうふうに考えていったらいいんだなという多様な活動に伝えやすいような工夫がされていました。

内容の②内容のおさえ方に対する配慮、学び方図鑑というものが設定されていて、子どもたちが獲得する知識、技能をしっかりとそこで確認することができるような工夫がされています。

教育出版、内容の③評価の特質に即した要点の考え方などに対する配慮、ワクワクスイッチで、学び方の方向性を整理することができるように工夫されていました。

内容の④、表記や表現に対する配慮。ウェビングマップの表示があり、子どもたちが、学習の中で、思考ツールとしてそういったものを工夫できるように表示をされているところがよかったということです。

光村図書、内容の③教科の特質にした要点の考え方などに対する配慮、全ての小単元に振り返ろうがあり、児童の考えを広げたり深めたりすることができるように工夫されていると感じました。

構成の⑤学習活動に対する配慮、広がる生活時間というのが、巻末にあって、それを切り離してですね、実際外へ出て比べてみたりとか、そういうことができるような工夫があって、持ち運びをしやすい資料としてよかったという意見がありました。

啓林館、構成の③教科の特質に即した主要教材、補助教材等に関する配慮、ビククリライブ図鑑が四季に分かれて用意されていて、それぞれの季節に合わせた体験活動に活用できるように工夫されていました。また、デジタル探検ブックというのは非常によくできていて、子どもたちが、そういったものを使って調べることができるというよさがあるというふうに思います。

以上で報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、音楽科の説明をお願いいたします。

○武蔵野小学校校長（大河原博） はい。音楽は、教育出版、教育芸術社の2社について御報告いたします。

2社ともにすべての項目で工夫や配慮が見られ、いずれも本市で使用する教科用図書としてふさわしいものと思われま。その上で、調査研究部門の中でも確認された特徴的な部分について御報告いたします。

まず、内容について申し上げます。①児童の発達段階に対する配慮です。3年生、富士山の楽曲では、両者ともに見開き等で大きな写真を掲載し、曲のイメージを感じさせる工夫がなされていました。

また同じ3年生のリコーダーの学習では、教育芸術社は、導入資料として児童がつまずきやすいところが丁寧に説明されていたり、ゆっくりと学習が進められたり、細やかさがある点で、部員の評価が高かったです。

リコーダーの学習が3年生から始まりますが、学級の規模によっては、音楽の専科教員ではなく、担任の教員が指導にあたる場合もあります。その際には、大きな助けになるものと考えられます。

次に、④表記や表現に対する配慮です。ユニバーサルデザインの観点から見ますと、両者ともにUDフォントを活用して、文字の認識にも配慮がなされています。

色に関しては、教育出版さんのほうは色がはっきりとしており、目をひくようになっております。また、教育芸術社は淡い色を多用し、刺激が少なく見やすく感じられました。

続いて、構成上の工夫について申し上げます。

初めに、④全体の構成が見渡せる配慮についてです。教育出版社は、巻頭に目次に沿って、絵や写真を中心に比較されたものが示されています。児童の意欲や関心を高めていくのに大変役立つと考えられます。

また、教育芸術社も、巻頭に学習マップがあります。こちらは、歌う、聞く、作る、演奏する、の各分野で、それぞれの学年で身につけさせたい力が、わかりやすく表記されております。

次に、⑤学習に対する配慮です。教育出版社は、手やグループで楽しみながら体を動かしたり、手遊びをしたりする活動や、音楽作りの活動がバランスよく取り上げられています。

一方、教育芸術社は、見つける、考える、歌う等、学習ポイントが明確に表記されたものが、全学年で統一されているといった工夫が見られました。

最後の備考です。両者ともに二次元コードが掲載されております。学習に活用できる音源や資料を、児童や教師が容易にタブレット等で取り出すことができる工夫がなされております。大変有効であると考えられました。

音楽からは以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、図画工作の説明をお願いいたします。

○富士見丘小学校校長（稲垣達也） 図画工作部会では、開隆堂出版、日本文教出版の2社を対象に、報告書にありますように、(1)から(30)まで、30項目を比較して取りまとめました。総じて、2社ともに、工夫や配慮が見られ、本市で使用する教科用図書としてふさわしいものと言えます。

その中で、ここでは題材について3点、特色について2点御報告申し上げます。

まず初めに、同じ題材を用いた、各教科用図書のページを参考にしながら、とりわけ、2社の題材の扱い方について、比較しやすい項目について、3点御説明申し上げます。

1点目は、(21)構成上の工夫の②についてです。

開隆堂の5・6年の上巻32ページ、同じく、1分の18ページには、糸のこを使った題材がございます。主なねらいは、切った板の組み合わせ方を工夫することです。開隆堂の作品で、こちらでございますが、色づけをしてカラフルになっております。逆に色にとらわれてしまうことがあるかなというふうに思います。そして日文はこのように、無地の素材の板材を用いて、糸のこの特徴である、カーブや入り組んだ形に注目させ、形の面白さに、焦点化されやすいかと思いません。

続いて2点目は、報告書の(8)内容の③についてです。

開隆堂の5・6年下巻46ページ、同じく日文の32ページには、1枚の板から創作する題材がございます。6年間で学んできたことを生かして制作する学習となります。開隆堂は、こちらでございますけれども、制作手順がわかりやすく示されている反面、児童の思考が限定されやすいかと思いません。そして、日文はこちらでございますが、作品例を多く掲載されております。既習事項を想起しながら、自由な発想が広がりやすいかと思われれます。

続いて3点目は、報告書の(12)内容の④についてです。

開隆堂の3・4年上巻36ページ、同じく日文の46ページには、磁石を使って遊べるものを工作する題材がございます。

開隆堂のこちらですけれども、完成後に、楽しそうに遊ぶ姿が大きく掲載されております。ただその分、作品作りに関わる情報が少なくなっております。今、申し上げた、こちらが日文です。開隆堂のほうは中央に子どもの写真が大きく載っているものです。日文がこちらでございますが、磁石の性質を明確に示すとともに、作品例の、磁力、磁石の力を使っている部分を拡大しておりわかりやすく示されているかと思いません。

続いて、題材以外の特色について2点御報告申し上げます。

1点目は、報告書の(1)内容の①についてです。開隆堂と日文の1・2年上巻の最初のページを御覧ください。こちらが開隆堂でございます。スタートカリキュラムに関するページです。開隆堂では、「ワクワクするね」に続いて目次、そして題材のページに続きます。日文では、どんなこと好きだったか、好きだったというページから、折りこみや見開きページが続き、造形遊びスタートまで、ゆったりと興味関心を高めていく構成となっております。

最後になります。2点目は、報告書の(27)構成上の工夫の③についてで

す。

それぞれの最初のページ、開隆堂最初のページ、開隆堂では、折り込みで、1年間全体の流れがわかりやすく、また、キャラクターが目をはきます。ただ、目次のマークに文字がないため、把握しにくい面もあります。日文では、表紙を開くと、目次と観点のマークが、色と文字で表示されており、年間の学習内容が一目で見通せるようになっております。

以上で図画工作の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に家庭科の説明をお願いいたします。

○つつじが丘小学校校長（大友基裕） はい。これより家庭科の報告をさせていただきます。

家庭科は、東京書籍と開隆堂の2社ということになります。どちらも写真やイラストを効果的に活用し、理解しやすい内容となっております。

また、項目は違いますが、こちらも単元ごとに、学習の段階がスリーステップに分かれており、学習の組み立てがしやすい構成となっております。

それでは、調査結果報告書に基づいて御報告させていただきます。まず、内容①児童の発達段階に対する配慮です。

東京書籍は、目次の上に、5年生から中学生に向けての流れが言葉で記載されており、先の見通しが持ちやすくなっております。

開隆堂は、最初のページに、これまでの成長の軌跡や、その過程で何を学ぶのかがイラストで描かれており、将来を見すえたイメージが持ちやすくなっております。

次に、②内容の抑え方に対する配慮です。

東京書籍は、最初の端末にある「いつも確かめよう」というページがあり、実習などの際、いつも立ち戻って確認することができるようになっております。

開隆堂は、裏表紙に野菜の切り方の写真と物差しがついておりまして、実習の際に確認しやすい配慮がなされております。

④表記や表現に関する配慮では、東京書籍ですが、写真やイラストが効果的に配置されています。特に掲載されている写真は、大小のメリハリがあり、わかりやすい配置となっております。

開隆堂は、家族を扱う単元、一緒にホットタイムという単元で扱っている、親の写真が、外国人であることなどから、国際性や多様性に配慮しているところが感じます。

次に、構成上の工夫です。

①内容の組織配列及び発展的な系統に対する配慮です。

東京書籍は、リンクや各教科とのつながりが示されており、既習事項の振り返りや季節ごとの比較がしやすい構成になっています。

開隆堂は5年生の学習内容が、生活を見つめ、できることを増やしていこう、6年生の学習内容が、工夫して生かそうと段階的になっており、発達段階の接続、連携を意識した構成になっています。

最後に、⑤学習活動に関する配慮です。東京書籍は、各単元の導入に話し合う活動があるため、グループ学習がしやすい流れとなっております。また、必要な場所にリンクが書かれており、振り返りながら学習に取り組めるようになっています。

開隆堂は、単元の最後に学習の振り返り欄と生活に生かすことを書く欄があり、学習の振り返りがしやすいと感じました。

備考欄です。

東書、裏表紙をめくると、食品のグループ分けの表があるため、容易に確認できます。2次元コードにつきましては、学習カードと動画が出てきます。学習カードは、児童がタブレットを使って入力できるものもありますが、カードを共有したり、提出したりすることは不確定です。

開隆堂は、裏表紙をめくり、折り込みのページをめくると、食品のグループ分けの表が出てきます。折り込みをめくらなければならぬのが一手間ではあります。2次元コードについては、学習カードと動画が出てきます。学習カードは、児童がタブレットにダウンロードすることはできますが、入力はできません。

このダウンロードは、教員が資料として印刷するためだと思われます。

以上、家庭科からの報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、体育科の説明をお願いいたします。

○光華小学校校長（眞砂野裕） はい。体育科、保健領域です。

全部で6社でございます。6社とも、内容、それから構成上の工夫上、どこも工夫されていて、遜色ないというふうに見受けました。ここでは、実際に授業を受ける子どもたちの視点に立って主だったところだけをお話したいと思いません。

まず、内容の①児童の発達段階に対する配慮ですが、東書のところは、4年生からの発育で扱う月経とか射精といった、多少デリケートな部分、ここが、個人で学習できるような配慮があります。これは、子どもたちからすると、学習しやすいだろうなというふうに思います。

また、同じ4年の体の発育では、文教社さんは結婚、出産が体の発育がゴールというイメージの、表紙になっているんですが、ここに違和感を感じるお子さんは、きっといるんじゃないかなというふうに思いました。

体の発育からは離れますが、大修館さんは、常に、内容をクイズ形式にしたり、光文書院さんは、イラスト、4コマ漫画的なもので最初の扉のところで、内容が把握できるようにしているので、子どもから見ると、興味を引きやすい内容になっていると思いました。

②内容の抑え方ですが、ここは各社とも、一定のパターンに沿って構成をしていますので、子どもたちからすると、思考をそこに乗っけやすい工夫があるというふうに思います。

一点、文教社さんは、学習単位ごとの最後のところのまとめ方を、もう1歩先の自分へという前向きな、まとめ方をするので、子どもたちは、ただ感想を書い

て終わりではなくて、少しこうなりたいという思いで終わる工夫があったというふうに思います。

内容③に関しては、考え方などに対する配慮ですが、特に子どもの主体性を引き出しているなどと思ったのが、東書、光文、学研です。

1つ飛んで、⑤昭島市の地域性においては、施策にもなっている、グッドモーニング 60 分、それから多摩川と事故防止という観点、これは教師の視点で考えました。特に多摩川の事故防止に関しては、各社ともに触れていますので、必ずそこで教師が、子どもとですね、危険性を共有することができます。ここに遜色はございません。

グッドモーニング 60 分に関しては、今、私たちが持っている資料で 1 番説明しやすいなどと思ったのが、東書、大修館、光文、学研、この 4 社が説明しやすいなどと思います。

続いて、構成上の工夫です。この構成上の工夫では、①発展的な系統に対する配慮のところに着目しました。これは、子どもたちからすると、自分ごととして興味がさらに広がっていくような、そういう資料があるかどうかということです。これもですね、子どもたちが乗ってくるだろうなどと思ったのが、大修館、光文、学研です。

1つ飛んで、③主要教材、補助教材に関してですが、ここは教師の視点で考えた時に、プラス資料を用意しなくちゃいけないなどというふうに考える教員が多かったのが、大日本、文教社、ここは、ほかに資料をこちらに用意しなくちゃいけないだろうなどという意見も多かったです。

④のところ、全体の構成を見通せるというところでは、大修館さんは各単元ごと、誰もが知っているような著名なスポーツ選手のインタビューで入ってきているんですね、構成の仕方をしていきますので、子どもたちとすると、興味を持って入りやすいだろうなどと思います。見通しもしやすいと思います。

2次元コードで、ここは、教師としてですが、使いやすいなどと思ったのが、東書、大修館、以上です。

これで、報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、英語の説明をお願いいたします。

○中神小学校校長（松井茂） はい、それでは、外国語のほうは 6 社ございます。6 社とも共通していることが、カラフルで見やすく、図や写真、二次元コードでの動画、音楽、ネイティブな発音など、参考資料が豊富でございました。また、人権に配慮し、様々な国や人々を取り上げております。もう 1 点が、見通しを持って学び、ゴールが明確に示されておりました。各社、特徴的なところを述べさせていただきます。

まず、東京書籍でございます。内容の①ユニットごとにスピーチカードが用意されており、スピーチの内容や示したいものを、焦点化しやすいと思われま。

構成の②時間があつた時に行う付録の活動にプラスが用意されているところです。

次に、開隆堂の内容②巻末にキャンドウチェックがあり、子ども自身が学習を振り返るために使います。

構成の⑤レッスンの初めなどに、レッツウォッチ、アンド、シンクの映像がアニメーションで紹介されており、親しみやすくなっております。三省堂の内容④表記方法や単語表現について気をつけることが、ページ下に記載されております。また、ミニ情報として右下に掲載もされております。

構成の③別冊にありますマイディクショナリーの索引が50音になっており、ひきやすくなっております。

次に、教育出版です。内容④ワールドオブスマイルズや、6年生で外国の地図記号を扱うなど、外国の文化に触れる機会を作っております。

備考のところでございます。2次元コードを見るだけでそのコードが動画なのか音楽なのか分かるようになっております。

次に、光村ですが内容の③ユニットの最初に場面状況の設定が日本語で記されていて、どんな場面設定なのか理解しやすくなっております。

構成の④巻末にオールアバウトミーがあり、1年間で学んだことを使って自己紹介をする形になっております。これはホームステイをした時、自己紹介をする時に一般的に用いられている手法だということです。

最後に啓林館でございます。内容の②日本語が多く、取り組みやすくなっております。

構成の③チャートにおきましては、アクセントがついており、発音の参考になると思われます。

外国語からの報告は以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、道徳の説明をお願いいたします。

○田中小学校校長（星野典靖） はい。道徳科は全部で6社ございました。道徳科の特質に合っているかどうかということ、児童の学ぶにあたって心をしっかり耕すことができるかどうか、そういう視点を大切にしながら委員の皆様と検討してまいりました。6社とも、児童の発達段階を踏まえたり、いじめ防止の指導や過去に行われましたオリンピック・パラリンピック教育等の教育課題について取り上げたり、特に2次元コード、これを掲載していただき、道徳的価値について考えを深めることができるものでした。

その中で、各社それぞれの特徴について、順にこれから説明させていただきます。

まずは東京書籍です。

内容②各教材に2種類の中心発問が記載されており、学級は児童の実態に応じて選択できるようになっています。内容④巻頭に児童へのメッセージが掲載されていて学習意欲の喚起につなげています。

構成③古くから使われている教材、新しい視点からの教材、外国の文化に触れる教材、偉人についての教材など、こういうものが充実しています。

構成⑤思考ツールとして活用できるように、付録として新条例を活発に配して

います。

次に、教育出版です。

探検、解決などの教材の活用法が占められています。この内容②です。内容④挿し絵が優しい色合いのタッチになっていることが多くて、とても見やすくなっています。

構成③いじめや情報などの教育課題について、補充資料が多く掲載されています。

備考欄、3年生以上でタブレットの活用紹介ページが掲載されています。

次に光村図書です。

シールや1行メモ、こういうものを使って学習を振り返らせて、学びの足跡の分かる工夫があります。これが内容の①です。

内容⑤には、段階的に世界に視野を広げた教材も見られます。

構成⑤考えるヒントとして、話し合いのコツや役割、演技の提案などが掲載されている教材があります。

あと、備考欄です。自分の学び方、これが具体的にQ&Aについて示されています。

次は、日本文教出版です。内容③学習や理解を補助するガイド役のキャラクターを配しています。

内容①周囲の人との関わりについて考えさせる工夫が見られます。

構成④巻頭に教材一覧を配し、今後の学びに見通しを持たせる工夫があります。

あと備考欄です。別冊道徳ノート、これが付属をしています。

次は光文書院です。内容③展開での設問、この数が他社よりも多く配置されています。

構成②4コマ漫画風に写真が掲載され、少ない文字でも考えさせることをテーマにそのページを工夫しています。

構成④内容項目の関係等を図式化して把握できるような工夫が見られます。

構成⑤考え方の明示や学び直しなどを配し、児童自らに振り返らせる工夫があります。

最後は学研です。内容③構成⑤、これは共通していますが、様々なコラム、巻末の記述欄を配して価値理解につなげる工夫があります。

内容④登場人物の視覚化によって、教材理解がしやすくなる工夫がしてあります。

内容⑤ユニバーサルデザイン、このテーマそのものを教材にしたものが掲載をされています。

構成①教科書内で様々な記述がありますが、その説明の意味をマーク、これをたくさん使用しています。

報告書は以上になります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

各教科の調査研究部長からの説明が終わりました。様々な角度から調査分析をされ、メリット、デメリットをわかりやすく説明していただき、大変ありがとうございます。

ございました。

ただいまの報告に関しまして、委員の皆様から御質問などがございましたら、お願いしたいと思います。

それでは、まず国語からいきたいと思いますけれども、御意見、御質問等いかがでしょうか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 1点お尋ねいたします。国語の教科書、教材文が載っていて、載っているだけで終わりになっている。子どもたちの学習活動についてどのような扱いになっているかというところに関してお尋ねしたいんですが、例えば、同じ教材文を3社が使っているとしまして、ある会社はその教材文が載っているだけで次の教材に移ってしまう。同じ題材を扱っても具体的な学習活動がいくつか例示されているというようなところがちょっと違いを感じたんですけれども、昭島の子どもたちや先生方にとってはどちらのほうが使いやすいんでしょうか。それをお尋ねしたいと思います。

あともう1点です。1年生の文字指導に関係することです。今回横書きについてのことが載っているのが目新しいなと私は思ったんですが、縦書きなどの場合には1マス目を4分割して、促音とか句読点の各場所が例示されているのを長く目にしてきたんですけれども、今回、横書きのことに関しましてはその4分割してどこに促音とか句読点を入れるのか、細かく載っている教科書もあり、ただ横書きはこういう場所に書くんですよと大体の場所というのかな、子どもにとってはちょっとわかりづらいかなと私なんかは感じたんですけれども、文字指導をする初期の1年生の段階ではどちらのほうが良いと思われたかなと、話題に出ましたら教えていただきたいと思います。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） はい。それでは小原校長のほうで答えさせていただいてよろしいですか。

○拝島第三小学校校長（小原弘樹） はい。御質問ありがとうございます。まず1点目、著者についてですけれども、著者の表記がなくても、題名がわかれば教員はすぐ探し出すことはできるはずで、子どもにとっても、題名がわかれば、図書館、図書室で、本を探し出すことは可能で、それもまた学習の1つであるかなと思います。

児童の活動についてですけれども、経験の浅い教員もいて、その活動について具体的に示しているのは大変ありがたいと思っております。昭島の子どもたちに有効に活用できると考えられます。

それから横書きについてですけれども、委員の中でも話題になりました。国語の基本は縦書きなんですけれども、生活する上で横書きは多く存在しています。ですから、教科書で取り上げるのは非常に大切なことであるという意見が出ました。

以上になります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

よろしいですか。それでは次、書写に移りたいと思います。

いかがでしょうか。

眞如委員。

○委員（眞如むつ子） まず、お話しする前に、調査部会の皆様、それから委員会の皆様、本当にもう素敵にしっかりした報告書をあげていただいて、ありがとうございます。これが大変参考になりまして、教科書を見ることができました。

質問なんですけれども、国語と書写はかなり連動してやることが多いかなと思うんですけれども、調査部員の皆様の声に、同じ教科書会社のほうがいいという御意見とかありましたでしょうか。お願いします。

○教育長（山下秀男） それでは、小原校長お願いいたします。

○拝島第三小学校校長（小原弘樹） 違和感なく指導できるので、同じ教科書会社というよりも、今まで使っている出版社がよいという意見はありました。以上になります。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 3年生から毛筆が始まります。それに先立って、1年生や2年生の書き方の教科書に、筆に水をつけて、書けると。また乾くとそれを繰り返して使えるようにという、水書用紙というのがどこの会社にも入っているんですが、限られた授業の時間の中で、その水書用紙ってというのが、授業の中で活用されているのかどうなのかということをお尋ねしたいなっていうふうに思いました。

○教育長（山下秀男） では、小原校長お願いいたします。

○拝島第三小学校校長（小原弘樹） あまり活用されているとは聞いてはいないんですが、メリット、デメリットを、理解する必要があるかなと思うんですね。水書用紙。紙に水で書いて字が書けるというものなんですけれども、準備するものが少ない。ですから低学年でも書けると。それから、汚れない。もう1つは、繰り返し使えるというメリットがあるんです。デメリットとしては、例えば3年生でも、墨で書くんですけれども、何度も繰り返して、その水書用紙を使いますので緊張感がない。書写独特の、さわやかな緊張感が味わえないというところがデメリットだと思います。

ですから水書用紙については、毛筆が、毛筆の学習が始まってすぐ、または始まる前の学年、それから、上の学年でも、指定枚数を書き終えて、もう少し練習がしたいという児童について使うのが有効であるという意見が出ました。

以上になります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

よろしいですか。それでは次、社会科に入りたいと思います。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） はい、説明色々ありがとうございました。先ほどの調査結果報告書の説明の中に、内容の③のところの社会科の見方、考え方がよくわかるということと、スモールステップで学べるようになってきているということが、3社共通してあるというふうな話があったんですけども、このスモールステップで学習を進めていくってということは、やはり児童が主体的に学んでいくということの中で、どういうメリットというか、があるのかを教えてくださいたいと思います。

○教育長（山下秀男） はい、小瀬校長お願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） 大きな単元を、学習問題とといいます。その学習問題を、大きな問いを解くためには小さな問いを解いていく。そのために小单元ごとに小さく問いが配置されている。したがって見通しが持てるとか、めあてが明確になるとか、それから今私はどの位置の学習をしているのかという位置づけがわかると。したがって主体的な学習に非常に大事なことだと思っています。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

眞如委員。

○委員（眞如むつ子） とても3社とも色々工夫されてできているなと思いましたが、3年生、4年生については、3年生は「私たちの昭島市」、4年生では「私たちの東京」ということで、今採択しようとしているこの教科書よりも、そちらの副教材の方を中心に使っていくと思うんですけども、教科書はとてもよくて、学び方、それから生活と様々出ているんですけども、3年生・4年生の学習に、年度当初に教科書の方でうまく活用できるような、教える側ですけどもね、子どもたちに上手に、こう出していけるような配慮がなされているのかどうかっていうのを、ちょっと教えていただきたいと思います。

○教育長（山下秀男） 小瀬校長、お願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） はい、ありがとうございます。おっしゃったとおり、3年生の社会科のスタートの年になります。社会科で1番大事なのは、もちろん内容もそうなんですけれども、1番の問題を気づく、つかんで、そして追求していく、そしてまとめるというような問題解決に向けた学習過程があります。それを丁寧に各社とも積み上げられるように、段階的に考えられて作られているという点が1点と、またもう1つは、非常に内容でも調査、取材の仕方、インタ

ビューの仕方、これが普遍性を持っていると、汎用性が高いということで、両方使えるなど。十分配慮されていると思っております。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかございますか。

よろしいですか。それでは次、地図に移りたいと思います。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 先ほど、地図のところの御説明の中の、備考のところについて、SDGsの掲載について御説明いただきましたけれども、社会科の教科書の中ではとてもたくさん扱いがあったと思うんですが、この地図という中で、このSDGsを取り上げて、取り上げ方に、各社、工夫や特徴などございましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 小瀬校長、お願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） はい。基本的にSDGsという言葉は、ここ10年ぐらい出てきたんですけれども、少なくとも内容を見ていくと、環境とか多様性とか伝統文化とか異文化理解とか防災安全、その地図帳そのものが、もうその内容を網羅しているということで、ただ、SDGsと特に意識されているなっていうのであれば、2社ですけれども、東京書籍のほうでは、例えば、ありがとうって言葉、ドイツ語だとダンケシェーンとか、日本語はありがとうとか、サンキューとか、それと同時に民族衣装が出ている。そういう世界地図とマッチしながら、そしていろんな国の文化が理解できるような配慮もされていると。また一方で帝国書院の方では、どちらかと言えばストレートに、持続可能な開発、SDGsというテーマ図がありまして、そこに例えばマダガスカルでは国連による就職支援とか、あとはカンボジアは水の水道水事業とかというような取り組みを紹介してまして、子どもにも感覚的にSDGsというものが捉えられるような配慮がされております。以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほか、よろしいですか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 2社とも、地図をすごく親しみながら色々な場面で活用できるように編集されているなっていうような印象を持ちました。例えばニュース番組で外国の名前が出てきたらちょっと地図で調べてみるとか、旅行に行った時、そこ地図で調べてみるとか、色々、折に触れて、学校で使うだけではなく、家庭でも色々できるんじゃないか、使えるんじゃないかなっていうことを感じました。

私、これ見本を見せていただいて、私が夢中になってしまったのは、構成上の①発展内容として、というところなんですけれども、「ホップ・ステップ・ジャンプ」とか、それから「地図マスターへの道」っていうの、これクイズ形式になっているんですね。こうレベルが色々あったりして。これがなんかすごく楽しくて夢中にな

って、ちょっとあのかなりの時間を費やしてしまったんですけども、授業の中で、こういう発展的なものを扱うようなことってできる、実態はどうなんでしょうか。そこら辺を教えていただきたいと思います。

○教育長（山下秀男） 小瀬校長お願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） 今おっしゃられたように、全て丁寧にやるというのはもう時間的に無理です。ただ、委員もおっしゃられたように、自分で取り組むことができるっていう意味では、非常にあの価値のあるものから、それもあの、案外ゲーム感覚でやるので、その中で地図の見方、考え方とか、また活用のための技能が身についていくので、非常にこれは両社ともいいものを作ったなと思っております。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

ほかにございますか。それでは算数に移りたいと思います。いかがでしょうか。

松本委員。

○委員（松本芳之） 2つありますので、まとめてお話をします。

1つ目は、プログラミングが入って来まして、この指導について題材や教える側から、題材や見やすさなど、委員の方から何か意見はあったかということが質問の一つ。

もう一つは1年生が入学したときにまず接することになる、いわゆる別冊のスタートブック、これがないものもあるということで、これが児童の学習理解にどう影響するかということについてお答えいただきたいと思います。

○教育長（山下秀男） 2点について、松川校長お願いいたします。

○成隣小学校校長（松川靖弘） プログラミング指導について、題材の見やすさ、内容については、委員のほうからは特に大きな意見というのはありませんでした。

そして別冊については、A版で中綴じのもの、中綴じの物は使いやすいという意見が出ました。中綴じの物は、広げた時にまっ平になるので入門期の子どもたちにとっては、段差なくまっ平になりまして、そこに算数のブロックとか、そういうものを置くときに置きやすいなという、活用しやすいなという意見はございました。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございました。

ほか、ございますか。

よろしいですか。それでは次に理科に移りたいと思います。

いかがでしょうか。松本委員。

○委員（松本芳之） 実験や観察の写真あるいは資料、この見やすさについて委員の中か

ら意見が出たでしょうか。

○教育長（山下秀男） 鈴木校長、お願いいたします。

○東小学校校長（鈴木正樹） 調査結果報告書の内容の④の表記や表現に対する配慮に記入してあるんですけども、写真大きくていいとか、明るくていいとか、イラストとか、各社特徴は違うんですけども、使いやすさについての特徴については意見が出ました。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにございますか。
紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 実験の記載についてなんですけれども、いろいろ見ますと、実験の結果、例えば重りとか、測った表とかが、もう数値が入っている会社と空欄で出している会社といろいろありましたが、そういうものがあるほうがいいのか、ないほうがいいのか、そういうのって実際に先生方が指導されるあの上で影響があるのかどうかということについて御意見ありましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 鈴木校長、お願いいたします。

○東小学校校長（鈴木正樹） 特に有無があることで指導に影響は出ないんですけども、児童の実態によっては、例えば実験の技能がまた十分な段階であった場合には、記載があった場合は例えば実験方法が間違っているとか、ここの段階で正しいということに気付くという利点がありますので、見通しを持たせる上で有効になる場合のケースもあるので、ないからとかあるからいけないということではないのかなという話が出ました。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。
ほかにございますか。
氏井委員。

○委員（氏井初枝） 教科書のサイズのことについてお尋ねいたします。あの理科の教科書は、大判のところもあり、それから横長のものところもあり、それからその中間のところもあり、授業の中で教科書のサイズによって扱いやすいとか、扱いにくいとかってこと話題になりましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 鈴木校長、お願いいたします。

○東小学校校長（鈴木正樹） 大きさによる大きなデメリットはないんですが、大きいことによると見やすいというメリットはありますが、机上のスペースを取るので、例えば、教室で個人実験をする際は、スペースを使ってしまうので実験器具の置き方であったりとか、ほかのものを置くときにちょっと工夫が必要になるので、

デメリットとメリットというのは多少はあるんじゃないかなということですが、大きなデメリットデメリットはないという話が出ました。

○教育長（山下秀男） よろしいですか。

ほかございますか。

よろしいですか。それでは次、生活科お願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 生活科は、学校探検とか町探検とか色んなものを探してみたり、栽培してみたり、のような、活動が中心になる教科っていうイメージがあるんですけども、各社とても素晴らしい興味深い教科書をだなっていう印象だったんですけども、この教科書を、実際の授業の中ではどんなタイミングで使われているのかということと、そういう活動の中で使う教科書っていうふうに考えた時に、どういった要素がしっかり入っている、特色を持っていると使いやすいとか。そういったようなことについて委員の皆さんの御意見を伺いたいと思います。

○教育長（山下秀男） 鵜川校長、よろしく願いいたします。

○拝島第一小学校校長（鵜川雅行） まず、委員の先生たち、単元の導入に非常に便利に使われています。やはりあの1年生あたりまだどういう勉強をしたらいいかわからない中で、導入時に、こういう勉強するんだよっていう見通しを持たせるということが非常に有効だと聞いております。

また、活動中の作業の観察の参考となる資料がありますので、これを基に安心して活用できると言っていました。

また、学習終わった後の振り返りの場面がありまして、そこに学習したことの気づきであるとか、様々なことを書けるということで、教科書が非常に便利だということで話を聞いています。

また、教師の側からしても、ベテランの先生、若い先生いらっしゃいますけど、若い先生が、学年で同じ指導をする中での教科書、教材研究時点で、見ながら活動していこうっていうことで大変便利な、これ今、話したような見通しであるとか活動の参考になる資料であるとか、振り返る場面が非常に有効だというふうに聞いております。以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほか、生活ございますか。

眞如委員。

○委員（眞如むつ子） はい。生活科は、具体的な活動とか、それから体験を通して、時間をそっちの方にたっぷり使ってやると思うんですね。1年生になって入学してすぐの子は、字を書けない、文字を書けない、読めないっていう子もたくさんまだいる現状かなと思うんですけども、そういった中で、1年生のスタートの段

階で、子どもたちにこの教科書をどのように活用するというか、そういう配慮っていうのはどのようになされているのかなというのをお聞かせください。

○教育長（山下秀男） 鵜川校長、お願いいたします。

○拝島第一小学校校長（鵜川雅行） やはり1年生、なかなか活動が大事になります。先ほどお話したように見通しが持てるような、非常にどの教科書も写真とか絵を使って、こういうふうにやるといいよっていう、あるいはスタートカリキュラムを意識して、学校の場をたくさん写真が置いてあって、こういうふうになればいいんだよ、こんな感じだよ、やってみようかっていう提起的なものがありますので、そういったものに使いやすいというふうに思っておりますし、それに絵や写真を見てその真似事をしながら学習に入っていく、そしてその中で気づきが増えて来て、少しずつ少しずつ活動に、生活科の活動というのはわかっていくというふうにはできていると思います。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほかにございますか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 教科書会社によっては別冊があったりとか、それから教科書の巻末のほうに、四季に応じて教科書と同じサイズの4枚のカードがあって、野外活動の時に大変便利そうだなって、とても素敵な魅力的なものがあるなってことを感じたんですが、子どもたち、そういうのを手に持ってどこかに出かけていくっていうと、なんかすごくウキウキして、博士になったみたいな気持ちで野外活動に参加するのかなと思うんですが、そういう別冊とか、そういうカードがあることによって、なくしたりとか、先生のほうにしてみると煩雑になってしまって、ちょっと扱いがどうかなって思うところも、もしかしたらおありなのかなって思うところなんですけど、そこらへんは何か話題に出ましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 鵜川校長、お願いいたします。

○拝島第一小学校校長（鵜川雅行） お答えします。特に光村なんか切り外して持って行って、しかもパウチしてあって汚れてもいいようになっているんですね。これ非常にいいねという話が出ていました。逆に例えばなくすとか、そういう意見は出ていませんでしたけれども、今お話を聞いて、まさにそうだなと思いました。

ただ、名前を書く欄がちゃんとありますので、例えば班ごとに集めてかごにその時期は入れておくとか、あるいは穴を開けて紐を通して首からぶら下げて持っていくとか、そういう工夫ができると、今お聞きして思いました。以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほかございますか。よろしいですか。

それでは次、音楽、お願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 先ほどの御報告いただいた部分にも触れていただいたんですけども、やはり楽器、1年生だったら、鍵盤ハーモニカ、3年生リコーダーと、結構苦手、そういうことをやったことないという子にとっては割とハードルがあるものだなって感じるんですけども、そういう児童に対しての配慮っていう部分で、こういうところがよかったっていうことをもう少し教えていただいてもよろしいですか。

○教育長（山下秀男） 大河原校長よろしいですか。

○武蔵野小学校校長（大河原博） 両社ともに工夫がなされています。例えば1年生の教育出版社の教科書では、その導入の段階から実物大のこういった鍵盤ハーモニカがありまして、数ページにわたって、たくさんの曲の中でこういった形で、子どもたちが親しみながら、実際にこの大きさと合わせながらやるような工夫がなされています。

同じように、鍵盤ハーモニカに関して、教育芸術社のほうでも、見開きで、このように教科書に、大きな形で写真のほうが載っておりますし、こちらのほうは、逆にそのホース、吹き口だけでの曲の練習とか、そういった工夫もなされていきました。

また3年生のリコーダーに関しても、曲に入る前に、この先の部分だけでの曲の吹く練習ですとか、あるいはタンギングの練習などのようなものが入って、導入段階で子どもたちがつまづかないように、スモールステップで身につけていく、そういった工夫がなされております。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

よろしいですか。それでは次、家庭科に入ります。家庭科ございますか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 今回、家庭科の教科書を拝見して、本当に家庭科って様々な教科とリンクする深い教科だなというふうに改めて思った次第なんですけれども、この家庭科を学んでいくことで理科とか社会とか色々なことに結びつけていけるし、各教科の中でも家庭科であれやっただよねみたいな、生活の中でこうだったよねみたいなこともできるなっていうふうに感じて、その大切さを非常にしみじみと感じた次第なんですけれども、そういった意味で、他教科とのつながりを意識させることにとても配慮されていたというような教科書について、どういった配慮がされていたっていうことを、少し詳しく教えていただければというふうに思うんですけども。

○教育長（山下秀男） 大友校長、お願いいたします。

○つつじが丘小学校校長（大友基裕） ありがとうございます。どちら2社ともですね、マークがありまして、東京書籍、開隆堂も関連マークっていうのがあるんですけども、関連マークっていうのは、東京書籍の場合は他教科と、あとは中学校の技術家庭の関連なども示すものでして、その関連マークのところには、何年生のどの教科のどの単元みたいなことが記載されておりますので、今、家庭科で学んでいる学習は、何年生のこの教科のこの学習と関連しているんだということが一応わかるようにはなっております。

開隆堂についても、他学年ですかね、例えば具体的な例で言いますと、5年生の「食べて元気に」という単元が、家庭科の単元があるんですが、そこが社会科の5年のお米のところであったり、あとは3年生の体育、保健ですかね、「健康な生活」という単元と関連しているといった形での例示がされているところでは、2社とも他教科とのつながり、関連を意識した内容にはなっているというふうに思っております。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

よろしいですか。それでは次、図画工作に移ります。いかがでしょうか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 子どもたちの自由な発想を生かして、絵を描いたりとか、工作したりとかというのはすごく楽しい教科だっていうふうに思うんですけども、子どもたちのその自由な発想を生かすっていうようなことに関しても、具体的な話が部会で出ましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 稲垣校長、お願いいたします。

○富士見丘小学校校長（稲垣達也） その自由な発想というのを、その題材ごとにどんな力をつけるかっていうところの関連が、大事かなと思います。学習のめあての中での自由な発想というふうになるかと思えます。

先ほど報告の中でもお話させていただいたんですけど、例えば、板材を組み合わせる、板材を自由に組み合わせるという題材があります。この中で、開隆堂の場合には色々な色をつけています。その分色にちょっととらわれてしまうようなところがあるかなと思います。で、こちらの日文のほうは、板材をいかに組み合わせるかというねらいなんですけれども、色がほとんどない板材を組み合わせしております。こちらのほうが、子どもたちの板材を組み合わせるという自由な発想に結びつきやすいのかなという、まあ一例でございますけれども、それぞれ2社とも工夫はあるかなと思います。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。ほかにございますか。よろしいですか。それでは保健体育領域に移りたいと思います。

いかがでしょうか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） よろしくお願ひします。先ほど1番最初にお話いただきましたように、あの子どもに、視点に寄り添ってということで、デリケートな性の部分の、成長っていう部分についての配慮というふうにお話いただきましたけれども。逆に先生側にとって指導しやすい、ちょっとこれは伝えにくいってような、そういったような教科書ってというのが話題になったかどうかという点について教えていただけますか。

○教育長（山下秀男） 眞砂野校長、お願ひいたします。

○光華小学校校長（眞砂野裕） 結論から申し上げますと、6社ともに配慮は非常によくされているので、指導者側、教員として、ちょっとここはってところは特にないんです。繰り返しになりますが、東書さんはプライベートゾーンとか、射精とか、少し全体の話題にはちょっとしづらいなと思うようなところを、そこを二次コードで、個人的に学習できているみたいな、そういう配慮もありましたので、そういう声は委員の中からありました。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかございますか。
眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 私はどうしても指導時間とか指導計画とか、そういったところにいくんですね。どの子にもわかりやすいとか楽しいとか、そういう教科書、それから教員にとって教えやすいとか、計画を立てやすいとか、そういった教科書っていいなと思っているんですが、保健については3・4年生で年間8時間、5・6年生で16日時間しか、程度と書いてありますので、その程度の指導ということなんですが、この教科書を見ますと、ものすごく情報がたくさん入ってまして、大人の私なんかも見ても、すごく知らなかったこととか参考になることがたくさんあるのでいいなと思うんですけども、やっぱりその指導計画には、どうしても教科書の全てをの載せてやりたくないので、非常に難しいところがあるかなと思うんですが、情報について、どういう御意見が出たのかなってのがちょっと気になります。よろしくお願ひします。

○教育長（山下秀男） 眞砂野校長、お願ひいたします。

○光華小学校校長（眞砂野裕） 委員の中から出てきたのは、学研さんの5・6年は少し情報が多い。ただ、僕自身も45分間上でシミュレーションしてみましたが、事前にしっかり準備をしておけば、僕自身は決して多いとは思わないです。ただ、十分に教科書を読み込んで、もし授業に臨まなかった場合、ただこう読むだけだとすると、学研さんは確かにちょっと多いかなという気はしました。
それから逆に、ちょっと情報量が少ないところは、言ってみると、文教社さんは、3・4年、5・6年ともに情報が少し少ないな、他社に比べて少ないなという感じはしました。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにありますか。

よろしいですか。それでは、英語に移ります。いかがでしょうか。

松本委員。

○委員（松本芳之） QRコードの音声教材を含めてなんですけれども一人で学ぶ、これ要は復習なんですけれども、復習することへの配慮について何か委員から意見がありましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 松井校長、お願いいたします。

○中神小学校校長（松井茂） 単元ごとに教科書の絵や写真、豊富にあります。そこでどんな学習がされているとか、またそこで使われる単語などについて、特にこの外国語は二次元コードが、各社とも大変豊富にありまして、子どもたちがここのように発音するんだっけ、その子どもたち1人1人が自分が調べてみたいところについては、そこを活用してできるような、そんな工夫がされているかと思えます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 今、学校では3・4年で外国語活動をされていて、5・6年から英語、教科書使ってというふうになってきていると思うんですけれども、ということは、書くという作業が入るのは5年生からなのではないかなと思うんですけれども、初めて英語を書くということに対しての配慮、特に今まで英語とか全然触れてきてない、書くことに触れてきてないというようなお子さんが、苦手意識につながらないかなというふうな心配もちょっとしたりしてしまうんですけれども、そういったように、書く量について適切かどうか、そういった配慮されているかどうかということについて、御意見ありましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 松井校長、お願いいたします。

○中神小学校校長（松井茂） やはり委員の中で。小学校段階で英語嫌いは作りたくないよねという話が出ておりました。で、この書くというのはやはり難しいところで、各社とも大体1行で書けるような配慮がされていたり、その発達段階に合わせて例文を書き写したり、または例文に合わせて書いてみようというふうな、そんな活動を順を追って配慮されているかなというふうに思います。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

英語について、ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、道徳に入ります。いかがでしょうか。

○教育長（山下秀男） 紅林委員。

○委員（紅林由紀子） またこれもあのちょっと書くということにつながってしまうんですけども、道徳の中に、振り返りとかという形で、書かせる分量が、各社ちょっと違うかなというような印象を見て思いました。特に別冊ノートのある会社があって、これはどうなのかなってというような、個人的にはちょっと重いつていう印象があるんですけども、ああいうものについて先生方から御意見ありましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 星野校長、お願いいたします。

○田中小学校校長（星野典靖） 御質問ありがとうございます。こちらについても、やはり委員の少し意見を私のほうも聞いたところなんですけど、例えば1年生、やはり書けないので、最初の色がこうであって、印をつければいいよっていうふうになっています。ただこれは、道徳の別冊ノートでなくても、教科書そのものに実はそういう使い方ができるので、特にこれがあるからというメリットはないのかなってというふうな意見がありました。

それと、やはりその上の学年、大体慣れてくると、これがあの上段は、絵日記のようなレイアウトになっていて、上が自由に使っていいですと。で下は、ある程度その今日学んだ授業について自分の気持ちを書き記すという形になると思います。ただ、道徳の時間というのは45分という時間の中で、新たに学びを解決しなければいけないんですね。もう次の時間はまた違う内容項目について考える。そうなってくると、その45分のマネジメントというのはとても大事になるんです。で、教材も学年が上がるにしたがって、だんだん、だんだん理解するのに時間がかかる中で、書く時間ってというのが、あまりありすぎてもいけないのかなというふうに私と委員は考えております。そうなった時に、ここにある分量が、毎回毎回書くってことがマストになるのが怖い。それと、その上の自由の記述のところ、本来であれば友達の間を見て顔を見て、意見を聞かなければいけない場面で、それをメモを取って、それが100パーセント友達の意見を聞くことに注がれない。そういう危険性が僕はすごくあるのかなって思っていますし、委員もそのような考えというものが多かったです。

そういうこと考えると、この確かにこうやってまとめるのはすごく大事なことだとは思いますが、メリットだけではなく、デメリットもあるのかなっていうそのような意見です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほか、ございますか。眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 道徳については、なかなか難しいところが、指導の難しさっていうのがあるかなと思っているんですね。新しく色々変わってきて、児童とか学校の実態に即してとか、それから子どもたちの本音で自分の思いを語れるようにと

か、そういったいろんな工夫が必要になっていて、そういう中で教育活動全体の要ですよ、道徳教育は。それで、道徳の授業はその中心ですよっていうことになっているんですけども、そういったところで、子どもたちに価値観とかの押しつけにならないような取り組みというか、学習活動、言語活動、今お話ありましたけれども、そういう活動が入ってくると思うんですけども、そういった配慮ってというのが、どういう感じでなされているかなというのも気になります。よろしくをお願いします。

○教育長（山下秀男） 星野校長、お願いいたします。

○田中小学校校長（星野典靖） やっぱり学年が始まった時の最初の時間に、45分の時間の中で、どんどんオリエンテーション、必ずどのクラスでもやっていると思います。その中で、私が今自校の教員に話をしているのは、道徳の時間というのは、あなたは30人でも30通りの考えがあっただよ、ですからそれをしっかり受け止めなさいっていうことをまず前提に、で、それを子どもたちにも伝えていきます。

ですから間違った答えはない。ただ、実は市内のある学校で、ちょっと道徳授業失敗講座でお呼びいただいて、その同じような質問をいただいたことが、記憶しているんですけど、その時にお答えしたのが、ただ間違った答えはないと言いながらも、やはり人権に関わること、あと生命尊重に関わること、これはやっぱり教師として絶対に曲げてはいけないところだと思いますし、昭島市教育委員会のほうでやはりいじめをなくす、そういう理念のもと、我々教育活動を進めていますので、そこは大事にしていく。それは多少押しつけではないですが、しっかり指導しなければいけない事項なのかなと考えています。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかございますか。

よろしいですか。それでは13教科ひとつおりの質疑が、これで終わりました。これをもちまして小学校教科用図書選定資料作成委員会の調査結果報告書の報告及び質疑を終結いたします。

次に、特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の調査結果報告書について報告並びに質疑応答を行います。

知的障害特別支援学級設置校の校長、主任教諭の皆様に教科用図書選定資料作成委員会委員として御出席をいただいておりますので、事務局より紹介をお願いします。

○統括指導主事（田中晴恵） それでは、それでは特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会委員の校長主任教諭の皆様を紹介いたします。

共成小学校、森本校長です。

○共成小学校校長（森本弘子） よろしくをお願いいたします。

○統括指導主事（田中晴恵） つつじが丘小学校、大友校長です。

○つつじが丘小学校校長（大友基裕） よろしくお願ひいたします。

○統括指導主事（田中晴恵） 田中小学校星野校長です。

○田中小学校校長（星野典靖） よろしくお願ひいたします。

○統括指導主事（田中晴恵） 昭和中学校、佐藤主任教諭です。

○昭和中学校主任（佐藤） よろしくお願ひいたします。

○統括指導主事（田中晴恵） 多摩辺中学校堀田校長です。

○多摩辺中学校校長（堀田典子） よろしくお願ひいたします。

○統括指導主事（田中晴恵） 以上でございます。

○教育長（山下秀男） 知的障害特別支援学級設置校の校長、主任教員の皆様には改めまして御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは調査結果報告書の報告と質疑応答に入ります。なお、質疑応答につきましては同じように最後一括して行うことでよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

それでは、最初に小学校の特別支援学級設置校であります、共成小学校、森本校長から説明をお願いいたします。

○共成小学校校長（森本弘子） よろしくお願ひいたします。それでは共成小学校の調査報告をさせていただきます。

本校の特別支援学級児童は個々の発達特性、それから学びの習得ペース、本当に様々でございます。それぞれのお子さんの状況、それから特にここ数年は、ゆっくりとしたペースで学びを習得しているお子さんが増えているように思います。また、お子さんの特性、それから生育環境などから、情緒面での配慮、支援も必要とし、学習に向かう意欲づけも丁寧に指導する必要がある児童も多くなってきました。児童1人1人の実態に合わせて個に応じた指導、個別最適な学びの充実を意識して、着実に学力をつけていける内容のものを選ぶ必要があると考えております。

以上のことを踏まえて、本校は教科書採択にあたり、今年度は選定の視点を学びやすさ、情報量、親しみやすさ、この3点としました。

1点目、学びやすさです。具体的には児童が自分の力で取り組める内容になっているかどうかです。異なる学年の児童、学習の理解状況、ペースが違う児童が

一緒に学習をするので、児童の実態に即した内容で、かつ児童が自分で取り組める教科書が必要であると考えます。そしてスモールステップで、できた、わかった、を1人1人が実感でき、個別指導計画に沿った内容で年間を通して使用できるものを選びました。

2点目、情報量です。情報量が限られていてシンプルであることが必要だと思います。特別支援学級の児童にとって、イラストや問題数が多すぎるものは情報量が多すぎて必要な情報をキャッチしづらくなると考えます。少ない文字数で、かつ大きな文字であること、これが児童にとっては有効であると考えます。

3点目、親しみやすさです。学んだことが日常生活に即、生かされることが特別支援学級の児童の自立や自信につながっていくので児童の日常生活での経験と結びつきやすい題材を使用していて、モデルがわかりやすいもの、そして児童のやりたいという意欲喚起につながるものを選びました。

この3点に基づいて選んだ資料を使用することで児童が意欲的に学習に取り組み、できたという喜びを実感すること、そして、教員のほうからも、できたね、わかったねと褒める、そういったことが多くなることで、児童自身の自己肯定感もあの高まっていくのではないかというふうに考えております。

それでは、各教科の選定の調査報告です。

国語科です。低学年では身の回りにある親しみやすい言葉を中心にした学習ができるもの、中学年では児童の実態として、文字を読むことに興味を持ち始め、読むことを楽しみ始めた児童が多くなっていますので、親しみやすい昔話を中心に、言葉のシャワーで児童の言葉の世界を広げられる内容のもの、読み聞かせ、お話絵本を選びました。

高学年では実生活でのコミュニケーション力を高める内容のものを選びました。

算数です。低学年では、認知発達学習のスタートランタイムに立った子どものためのシリーズ「初級編ステップアップシリーズ」、中学年では、基本的な計算のほかにも、時計、お金、カレンダーの学習などを取り入れた実生活につながるよう工夫されている「ジャンプアップシリーズ」を新しく設定いたしました。

高学年ではスモールステップで基本的な計算力がつき、日常生活に生かせる項目を扱っている「ゆっくり学ぶ子のため」のシリーズを選びました。

社会科、理科、生活科の教科書は、主に生活単元学習の中で使用いたします。写真やイラストを多用していて視覚的にわかりやすく、興味をひく内容、身近な自然事象や生き物、児童が普段よく目にしたり使ったりすることが多いものを扱っている内容のものを選んでおります。

高学年の理科では、1つ下の学年の検定教科用図書を使用いたします。児童の興味関心や実態に合った内容を教科用図書の中から選んで学習していきます。

実技教科は検定教科書を使用いたします。授業の導入、それから振り返りの中で主に使用したいと考えています。

道徳も検定用教科書を使用します。道徳科の教科書の中で、特に挿絵を大切に丁寧な内容理解、そこを1つ1つ丁寧にやっていくことで、児童に内容について、価値理解、それから自己理解について考えさせていくようにしていきたいと思っております。

外国語活動でも検定教科書を使用いたします。5・6年生でも外国語活動で取り扱います。視覚的にもわかりやすく検定教科書はできており、各ページの2次元コードを活用して特別支援学級の児童も楽しく主体的に楽しみながら学べるようになってきていると考えております。特にピクチャーディクショナリーは使いやすく、こちらも2次元コードがついていて、積極的に活用することで英語に慣れることができるので、特別支援学級の児童にとっても大変有効だというふうを考えております。

本校の調査報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

続きまして、つつじが丘小学校、大友校長お願いいたします。

○つつじが丘小学校校長（大友基裕） つつじが丘小学校の大友です。どうぞよろしくお願いいたします。

本校で使用する教科用図書を採択にあたり、重点としていることが、特別支援学級の実態、つまり発達段階と児童の実態や授業と活動の実態に即した内容構成です。

本校の杉の子学級は、今年度47名の7学級でスタートしました。昨年同様、児童数も多く、教科によって授業形態を工夫する必要があります。また、どの学年でも児童1人1人の特性の違いや学力の差が大きく、児童個々の指導計画との整合性や学習の系統性を熟慮していく必要があります。

選定の視点は次の3つです。第1は視覚的にわかりやすく、児童の学習意欲を喚起し、児童の発達段階に適合しているものであること。

第2に、個々の学力の定着を促すため、継続的な学びを保証するものであること。

第3に学んだことが将来にわたり身の回りの生活に活かされる内容になっているかということです。GIGAスクール構想におけるタブレット端末の1人1台配布により、学習活動において個別最適な学びと共同的な学びの充実が重視されております。

特別支援学級の児童もタブレット端末を活用する力が求められており、これらの力は、将来的に自分自身の学習や生活の助けになるものと思われれます。特別支援学級の児童にとっては、実体験や物体物の操作等での理解も重要であり、ICTの活用等による疑似的な体験というのも重要です。アナログとデジタル等を往還させ、効果的な活用を模索しながら進めていく必要があります。

現在、杉の子学級では、各学年の学習環境や児童の実態に合わせた授業を実践しております。

それでは各教科の話に移ってまいります。

国語科では、1年生から3年生までが文部科学省の検定教科書を購入しますが、4年生から6年生は一般図書を購入しております。物語文は絵本を教材として使用することが多いのですが、言語事項も説明文等も含めて、4年生からの検定教科書は難易度が上がるため、活用が難しいと判断しております。

4年生以上の学年は、実態に応じて、視覚的にわかりやすく児童の興味をひく

内容の一般図書を選んでおります。

算数科は能力別の編成で授業を行っております。児童個々の実態によって教科書を変えている状況です。例えば4年生児童1名のみ、4年の検定教科書を使用するのは、この児童が通常の学級で算数の授業に交流事業として参加するためです。4年の教科用図書を一般図書にしているのは、割り算の段階でのつまづきが多いためです。そのため、この掛け算を定着する必要があります。麦書房の本を使っておりますが、この内容は、3、4桁の数の計算、かさ、長さ、掛け算について系統的に学習ができ、児童にも理解しやすい種類の大きさのイラストがあること。説明や問題の文章も、ひらがなと平易な漢字が分かち書きで読みやすくなっていることなどです。

児童の学びを深めるのに最適な例題もあり、4年生の段階でしっかり行うことで次の段階にステップアップできると考えております。

その他の教科は、基本的に検定教科書を選んでおりますが、理科の6年生は、児童の実態から検定教科書ではなく一般図書を選んでおります。6年生の実態から、視覚的にわかりやすく身近にあるもので興味をかき立てる構成となっております。検定教科書の内容よりもわかりやすく、児童が身近なものを使って意欲的に実験ができるため扱いやすく、学びが深くなるというような判断をしております。

音楽は、講師による授業を行っておりますが、検定教科書の歌の題材や作品例などが活用できるとともに、通常の学級との交流場面でも生かされると考えております。

英語は3年生以上の学年で検定教科書を選んでおります。3・4年生では絵カードや歌遊びなど、またドリル等を活用しながら楽しく英語を学び、5年生から少しずつ文字にも触れながら簡単な英会話ができるよう、ずっとステップアップしていきたいというふうに考えております。

以上、本校の報告を終わらせていただきます。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

続きまして、田中小学校、星野校長お願いいたします。

○田中小学校校長（星野典靖） はい、よろしく願いたします。田中小では現在、ふたば学級26名在籍しております。来年度は23人を今見込んでいます。

特別支援学級の使用教科書におきましては、3点踏まえて検討しています。

まず1点目です。授業の実態に即しているということ。やはり興味関心がある内容で、学習意欲を持ち続けられるものである。これがとても特別支援学級では大事な要素だと考えています。

2点目は教科用図書の系統性、これをしっかり重視していきたいと考えています。ふたば学級では、途中転学の児童が多い、そういう実態がございます。そのため、前籍校でこれまでどのような教科書をどのように使ってきたか、そういうことを確認をして、1人1人のその学習カルテを作成しています。これに基づいて個々の教科用図書について検討し、このことを踏まえ、音楽、図画工作、生活、保健、英語、こちらの教科については、主として検定教科書のほうを選定を

しています。

3点目は、個別指導計画に沿ったものであるということです。国語科ですと、差し絵から視覚的に学習に入ることが適している、そういう児童には特別支援学校での検定教科書、いわゆる星本を使っています。成長に応じて、星が1個、2個、3個グレードアップし、さらに学習が進むと、片仮名、漢字、単語、文章、そのあと詩や作文というように発展をしていきます。

高学年のレベルになりますと色々な作文が出てきたり、長い文章が理解できたりする、そういう内容になっています。

算数科で言いますと、10までの数の足し算、引き算、これができるようになりたいという児童には、繰り返し学べるようなものを教科用図書として使用して学習をさせています。

児童が、そこでできたことをしっかりと価値づけ、それ以降も同様に粘り強く指導し、定着させていきたいと思っています。1点目と関係するのですが、社会や理科、これは子どもたち1人1人の興味関心、そういうものをすごく大事にしながらか教科の学習内容がよりリンクできる、そういうような教材の設定をしています。

家庭科では、将来社会に出る時に、今、何を身につけることが必要か、このことを検討し生活力や自立力、それを取り込むことができる教材を設定しました。

道徳科では 発達段階や学習理解度の個人差を考慮してグループごとに学習をさせています。学年ごとに分けるのではなく、1人1人の実態を踏まえながらしっかり学習をさせていくのが本校の実態です。このことを踏まえて選定をしています。

道徳的価値の自覚や道徳的実践力を高める道徳科、この特別性を踏まえた授業を確実にを行うこと、このことを命じながら指導にあたっているところです。

最後になります。児童の実態に即した教科用図書の選定を適切に行うため、特別支援学級担任は、他校の教員とも情報交換をしっかりし、あと研修などに参加しながら学んでおります。そういう情報をこの教科書選定にも生かしております。そしてですね、やはり子どもたちの自尊心、そのものを配慮しながら、適正な子どもに寄り添った選定をし、そして指導をしていく。このことはこれからも大切にしていきたいと思います。

報告は以上になります。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

続きまして、昭和中学校佐藤主任教諭お願いいたします。

○昭和中学校主任（佐藤） 昭和中学校特別支援学級主任の佐藤と申します。本日は校長副校長の代理で参りました。よろしくお願ひいたします。

それでは昭和中学校の特別支援学級で使用する教科用図書の選定について御説明申し上げます。

まずは教科書選定の重点です。本校の知的固定特別学級の教育課程における学校学級の教育目標を達成するための基本方針では、全部で16項目を挙げております。その中で学習に関する項目が特に3点あります。

1点目は、個に応じたスモールステップの課題を提示し、進歩と成長を評価すること。2点目が学びの楽しさや達成感を味わる場面を増やし、生涯学習の礎となるようにすること。3点目が、個に応じた指導目標と学習課題を設定し、基礎学力向上を目指すことです。

同じく教育課程において指導の重点として、各教科についても2点挙げております。1点目が個別指導計画教科の特性を考慮し、一斉学年別、到達度別、縦割り等のグループ編成を工夫して指導し、特に国語、数学においては、1人1人の習熟の度合いを踏まえ、個に応じた指導を重点させること。

2点目が個別最的な学びと共同的な学びの視点から、主体的、対話的に学べる内容を設定し学びを日常生活で活用できるような、実践的な力を身につけるとともに、情報モラルへの理解を深めることとしております。

ただいま御説明した5点を教科書選定の考え方の基本として、教科の特性と生徒の習熟の度合い等の実態に応じて、より、個に応じた学習を重視する教科については一般図書を具体的に検討いたしました。その際は、内容を視覚的に捉え、直感的な理解を促す図表の挿入や振り仮名の有無等によるわかりやすさ等も考慮しております。

次に、各教科で選定した図書について御説明します。一般図書を選定した項目を中心に御説明します。

まず、国語ですが、新しく候補として挙げた一般図書です。小学校で学習する漢字が網羅されていて、1人1人習熟度の違いに応じて漢字を調べやすくなっております。また、筆順や熟語などをあわせて学べ、イラストもあり視覚的に理解しやすく、適した教材であると考えております。

また、もう1つの、「やる気ぐんぐんシリーズ」漫画、漢字、熟語の使い分けは、生徒たちには難しい、同訓異字、同音異義語などの意味の違いや使い分けについて、イラストとストーリーから具体的な場面を用いた説明があるため、発展的内容理解にふさわしいと考え選定したいと考えます。

書写は引き続き、「綺麗な字を書くためのワークシリーズ」から2点を挙げました。指先の巧緻性を高め、字のバランスを意識するのに適した教材として、これまでも継続して指導しているものです。

続いて数学は、習熟度別に編成した小グループの集団で授業を行っています。この中で特に、個に応じた学習に対応できる図書として選定しています。1人で学べるという著名のとおり、考え方、書き方の解説が図やイラストで順を追って丁寧にされており、説明文にはフリガナもあるため個別の学習に活用しやすいと考えます。

次に理科です。こちらは新しく候補として挙げた一般図書です。内容の構成が本学級の1年間の授業計画と似ており、ページ内Q&Aが基本的な内容で、授業内の発言や取り組みと類似しているため、例えば、授業を休んだ生徒にもその時の授業の流れがわかりやすい点がよいと考えて選んでおります。

最後に美術です。「心を癒すマンダラの塗り絵」は、形をとらえ、指先を集中的に使うだけでなく、配色を自由に行える楽しさが味わえる図書となっております。

また、「新版 技術資料 東京都版」と「ウォッチ2」は、図画をじっくりと

観察させ模写するためのサンプルとして活用しています。掲載されている図や作品例が豊富で幅広く、世界的に有名な作品から暮らしの中のデザイン例として商品のロゴやパッケージ、家紋なども掲載され、美術への関心を高める可能性を秘めていると感じ、これまでも継続して指導しているものです。

以上が一般図書を選定した理由です。

そのほか、社会、音楽、保健体育、技術家庭、英語、道徳科については文部科学省検定教科用図書を使用させたいと考えております。

説明は以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

続きまして、多摩辺中学校、堀田校長お願いいたします。

○多摩辺中学校校長（堀田典子） 多摩辺中学校校長です。よろしくお願いたします。

それでは多摩辺中学校における調査結果の報告をお伝えいたします。

本校の特別支援学級は46名在籍し、全員で行う一斉授業、2分割の指導、習熟度に合わせたグループ指導という授業形態を取っております。

教育課程においては、学校、学級の教育目標を達成するために将来の社会参加を見据えた、自立を目指し、生徒の障害による学習上、または生活上の困難の改善克服を目標とした指導支援に力を入れています。そのため、使用する教科書用図書においては、まず第1に学習の習熟度に差があり、様々な特性のある生徒にとってわかりやすくまとめられており、個に応じた指導に対応できるもの。第2に、生徒が主体的、対話的に学ぶために関心を持ち、意欲を持続できる内容、構成になっているもの。第3に、学びが実生活とつながっていく工夫がされており、日常生活で活用できる実践力を身につけられるものという3点を重視し、検討いたしました。

具体的には、視覚的に理解を促す図表や、写真の豊富さ、振り仮名の有無、個別学習の活用のしやすさ、ものの見方、考え方を学び、実生活に役立つ内容構成な、教科の特性と生徒の習熟度の度合いに応じて、より個に応じた学習に対応できる図書として選定いたしました。

各種目については、国語については、日常会話など、用例がたくさん記載されており、目的に応じたコミュニケーション能力の育成に役立つものや、漢字の部首に特化したテキストで、視覚的にわかりやすく学習できるものになっております。

書写に関しては、文字の形を捉えるアドバイスが豊富で、授業や家庭学習でも活用できるようなものになっております。

社会科については、検定用教科書を使用いたします。

数学については、四則計算の練習ができるもの、また、お金に関わる内容や食べ物を分割、何人分で食べられるかなど、生活に根差した数学が学べるもの。また、時間についても自立に向けた育成を満たす内容のものが主な内容となっております。

理科については検定用教科書を使用いたします。

音楽については、伝統的な曲が多数収録して、音楽を楽しむだけでなく学ぶこ

ともできる教材となっております。

技術については、作品では多く、道具の使い方、材料の説明が詳しく書かれており、工作がわかりやすく進められるような内容となっております、年間を通して活用できるものです。

保健体育については検定用教科書を使用しております。

家庭科等は、技術と職業の関連について詳しく解説がされており、キャリア教育という視点から活用範囲が広いという点で選定いたしました。

英語については、クイズやゲームが多く、子どもたちが楽しみながら英語の基礎学習ができるということを取り上げております。

道徳に関しては検定用教科書を使用しております。

生徒にとってか学びやすく、わかりやすく、そして実生活とのつながりに気付き、わかった、できたという達成感を味わうこと。学ぶことが楽しい、面白いという経験は、自己肯定感を向上させ、将来の社会参加を見すえた自立となるばかりではなく、生涯学習へとつながることとなります。このような効果が期待できる適切な教科用図書として選ばせていただきました。

簡単ではありますが、説明は以上でございます。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

それでは、特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の調査結果報告につきまして、委員の皆様から質問などございましたら、ここでお願いしたいと思います。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 御説明ありがとうございました。中学校の3校につきましては、一覧表に、検定教科書を使う場合にも単科のところにみんな記載されているんですが、小学校と同様に、ここは空欄になるのでしょうか。それとも中学校は別なのでしょうか。

○教育長（山下秀男） 佐藤主任教諭よろしいですか。

○昭和中学校主任（佐藤） 御質問ありがとうございます。中学校は今年採択の年ではないので、そこは記載は必要ないということになっていると思います。今までどおりでということです。

○教育長（山下秀男） 氏井委員。

○委員（氏井初枝） ではこれは間違いということですか。

○教育長（山下秀男） 佐藤主任教諭、お願いいたします。

○昭和中学校主任（佐藤） 間違いではないです。

○教育長（山下秀男） 記載しなくていいということですよ。
佐藤主任教諭。

○昭和中学校主任（佐藤） そうだと思います。

○教育長（山下秀男） よろしいですか。
氏井委員。

○委員（氏井初枝） ちょっとよくわからないのでまたあとで教えてください。

○教育長（山下秀男） ほかがございますか。細かく調査結果報告書を作成していただいておりますので、非常にわかりやすいということで、改めて皆さん認識されたのかと思いますけれども。ほかがございますか。
眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 特別支援学級の先生方が、子どもたちと一緒に色々なさっているなっているのを想像しながらお話をお聞きしました。

で、1つ確認をさせていただきたいんですけども、これはどの学校でも小学校、中学校どなたでもいいんですけども、一般図書を購入するということところで、例えば国語科ですと、やっぱり3領域を年間通して指導したいとかそういうのがあるんですけども、一般図書を買うということは、おそらく、多分、私たちも、文科省の教科書みたいに全領域が入っているわけではないので、当然、買ったものを中心にやっていくんですけども、毎年、個別指導をしてるわけなので、毎年、買っているその一般図書等を活用して、指導そのものはやっているという、そういう認識でよろしいでしょうか。それがあってこの一般図書の採択というのがすごく理解できるかなと思うんです。

どなたでも結構です。

○教育長（山下秀男） それでは、星野校長、お願いいたします。

○田中小学校校長（星野典靖） 御質問ありがとうございます。やはりそういう心配は常々私も校長として持つてはいるんですけども、やはりそちらはね、本来学ばなければいけないことについては、やはり最大限、特別支援学級だったとしても子どもに指導していくってことを、やはり肝に銘じながら日々教材研究をしています。

それと私の先ほどの報告の中にもありましたように、小教研の特別支援教育部等もすごく情報の共有の場ですので、色々な学校で行った実践、この教材に向けて、こういうようなメリットがあったデメリットがあった、その辺りを踏まえながら、それぞれ子どもたちの実態にこうふさわしいものを選ぶ、そういうことを大事にしているところです。またこれからもそこは大事にしていきたいと思います。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして、特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の報告及び質疑を終結いたします。

このあと採決に関する審議に入ります。

校長、主任教諭の皆様にはここで退席をいただきます。本日は大変ありがとうございました。

(校長・主任教諭退席)

○教育長(山下秀男) なお、時間も経過しておりますので、ここで10分程度休憩を入れたいと思います。会議の再開につきましては16時45分をお願いしたいと思います。

(暫時休憩)

(再 開)

○教育長(山下秀男) それでは、休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

初めに、小学校の教科用図書の採択を行います。

小学校の教科用図書の採択にあたりまして、委員の皆様から昭島市の児童にとってどのような教科用図書がふさわしいか、それぞれ御意見をいただきたいと思っております。その際に、事前にしております市民の皆様御意見についても、委員の皆様から御意見をいただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

そのあと、11教科13種目ごとに審議をして、採択を行ってまいります。

採択については、無記名で投票していただき、教科用図書を決定したいと思います。このような進め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) よろしいですね。はい、ありがとうございます。では、順序に従って進めてまいります。

それでは、教科用図書の採択にあたりまして、昭島の児童生徒にとってどのような教科用図書がふさわしいか、あわせて市民の皆様からいただいた御意見等について、それぞれ御意見ををお願いしたいと思います。

では、眞如委員。

○委員(眞如むつ子) はい。市民の方のを読ませていただきまして、学校の子どもたちに関わる教員の選ぶ教科書というところをすごく共感しております。やはり、1番子どもたちにとって楽しい授業、わかる授業してくれるのは教員ですので、そこについて、そういう御意見がたくさん寄せられている、関心が高いんだなというところを改めて思いました。で、その部分もしっかりと考えながら採択ができればいいなと思っております。感想です。

○教育長(山下秀男) ありがとうございます。

そうしましたら氏井委員、よろしいですか。

○委員(氏井初枝) 教科書を学ぶのではなくて教科書で学ぶ。これを1つの手段として、

教員と子どもたちが日々の授業の中でこう授業を作り上げていくっていう大事なものです。ですから先ほど教科会の長の方からお話がありましたけれども、日々子どもたちと活動している先生たちが、色々の表に細かくあのピックアップして書いてくださいましたけども、それを大いに参考にさせていただきまして、学校現場で実際に使いやすいついていうことは、子どもの実態に合っているということととらえておりますけども、そういうような教科書を選びたいと思っております。

子どもたちは学ぶ楽しさっていうのを、教科書を通じて得てもらいたいなということをおもっております。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、松本委員、よろしいですか。

○委員（松本芳之） 各部会の説明を通して、現場の教育の考え方もよく確認できました。

で、それを踏まえて、わかりやすさということを中心に適切な選択を行っていききたいというふうに考えております。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

では最後に、紅林委員お願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 先ほどの各教科の委員会からの先生からの話にもありましたけれども、私はわかりやすさとともに、見やすさ、見通しのしやすさということをおまず1つに考たえたいと思ひます。途中で、こう、授業の中で、途中で自分は今、何やっているんだっけみたいな、迷子にならないような、見通しをもつて学べるということが大事なのではないかなというのが1点です。

あともう一つは、市民の皆さんからの御意見の中にもありましたように、教科ごとの特徴としてやはりありますけれども、食いつきというか、最初の出だし、導入に興味を惹かれるかどうかやってみたいとか面白そうとかそういうような、何だろう、知りたいみたいな、そういったつかみが非常にそそられるものということも大事なのではないかなというふうに、その大ききは2つを大切に選びたいと思ひています。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。今回の教科用図書選定資料作成委員会のまとめ、色々な角度から調査分析がなされていて、非常にわかりやすく選定採択の参考に重要な資料としてまとまっていると思ひます。

これを今日、各校長の皆さんに説明をしていただく中で、ああやっぱ教育現場としてはこういう思いがあるのかということが、ひしひしと伝わってきた部分がございます。

少し迷っていたようなところもあるんですけども、スパッとここで決まりましたので、それで採択をしていきたいというふうに思ひます。

それでは、国語から順番に審議採択を行ってまいります。国語について御意見

等ある方は発言をお願いいたします。

松本委員。

○委員（松本芳之） 東京書籍は全部に「新しい」というのがついているんですけども、特に国語はまさしくそのとおりだというふうに私は感じました。で、自分で調べ考えをまとめるという方法が非常に明確に示されたんです。もちろん、調べる、まとめるっていうのは3社とも存在するんですが、見比べてみて初めてわかったんですが、随分トーンが違う、一様ではないと。

特に、調べる、の基礎となっている、図書室の使い方について、東京書籍とそれから教育出版、この2社は、図書ラベルの構造を明確に4年の段階で説明していた。非常に高く評価できる場所です。

特に東京書籍は、NDCという根拠まで明記しており、6年を通して、ほぼ完璧に構成されているというふうに私は考えます。さすがです。

で、一方、教育出版の方が、6年生でしっかりとそのグラフの読み取りということを導入しております。この点は特色だというふうに思います。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかございますか。眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 国語の教科書につきましては、本当にこう3社とも遜色がない素晴らしい教科書だなと、魅力的だなというふうに見ました。

やっぱりあの国語科が言語活動の要ですよっていうところ、そしてそれを学ばせるには3領域のバランス、配置、内容ともに、そしてあの子どもたちがいかに興味を持って、そして自分で主体的に学習するかという、そういうあたりの教科書会社の熱意というか、誠意と熱意をすごく感じて読ませていただきました。

今、松本委員からもありましたけれども、例えば読書活動の充実については、学校図書館の紹介のどこに置くかとか、それから、本の紹介を最初に置くか巻末に置くか、あるいは単元ごとに置くかとか、その出版会社の思いというか、そういうところで配置されているなと思いました。

それが、使う教員にとってどうなのかっていうところの御意見を今日、色々調査であの結果を読ませていただいて感じたところなんですけれども、いずれにしても、3社とも素晴らしい教科書なので、またぜひ次、もっともっといい教科書を作ってほしいなという思いで見させていただきました。

それから入門期の扱いですけども、これも、ものすごく興味を持つというか非常に大切だなと思っているんですけども、ここについても各社の思いがすごく出されていると思いますので、これを見た、新しい1年生が入門期でどのぐらいにつながっていくのかなというのも、すごく関心があるところです。

もう一度言います。3社とも、遜色のない素晴らしい教科書だと思います。

以上です。

○教育長（山下秀男） 次、氏井委員お願いいたします。

○委員（氏井初枝） 3社とも素晴らしいと、私も同じようなことを感じました。私、そのほかのことなんですけども、国語の学習を通して語彙力が増えるっていうのもすごく大事だになっていうふうに考えています。語彙力が増えることによって、書いたり話したりとかっていう、そういう表現活動が豊かになって、それを学習活動が豊かになるっていうことで直結するわけで、そういうところもよくできているなっていうことを感じております。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） それでは、紅林委員お願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 私は3社とも素晴らしい教科書だなと思いましたがけれども、特に今回はあの言語能力獲得のための工夫が、本当3社とも凝らされていて、例えば光村では、冒頭に、「さあ言葉について学んでいこう」というような呼びかけがあるように、各社とも言葉に対しての知識や習得のための工夫が凝らされているというふうに感じました。

先ほど、見通し、見やすさっていうことに重点を置きたいというふうに申しましたけれども、同じように、同じ教材を扱っている扱い方も構成の仕方がちょっと各社違って、例えば、4年に「ごんぎつね」を、3社とも扱っていらっしゃるんですけども、東書は単元のはじめに、めあて、どのような言葉の力を身につけるか、既習事項の振り返り、学習の流れが明示されていて非常に見通しを持って学べるというところにすごく特徴があるなというふうに感じました。

光村は、単元の初めに、めあて、既習事項の振り返り。導入の問いかけの言葉っていうのがありまして、入り込みやすい、本文に入り込みやすい工夫がされているというふうに感じました。

教育出版は、一言ありましたけれども、すぐ中身に入っていくっていうような構成になっていました。

光村は、先ほどの報告書にありましたけれども、説明文の単元の最初に練習のページっていうのがあって、そこから、ウォーミングアップをしてからもう1回さらに難しい説明文に入っていくっていうような、スモールステップっていう意味でもとてもいいんじゃないかなと思いました。

あとは、国語で扱っている教材がいろいろありますけれども、光村の1年生には「クジラぐも」という教材があって、これは光村だけですけれども、昭島の子どもたちには、学芸会とかでも何校かそれを上演しているところもあると思います。昭島の子どもたちには適した教材だなというふうに個人的に思っております。以上です。

○教育長（山下秀男） ひとつおとり、委員の皆様から御意見をいただきました。

私はほかに言うつもりはないんですけども、国語に関しては、読解力については、とにかく全ての教科を理解していく上で、本当に基本となるもので、読解力を高めていくことが重要なんではないでしょうか。そういう視点から見させていただいたんですが、やはりどの社も甲乙つけ難いというのが率直な感想であり

ます。

先ほどから様々な説明を聞く中で、私なりに決めたところであります。

はい、それでは国語の教科用図書につきまして、無記名にて、無記名投票により決定していきたいと思っております。記入のほうをよろしくお願いいたします。

(投票用紙記入)

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） 国語につきまして、東京書籍 1 票、教育出版 0 票、光村図書 4 票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

国語につきましては、光村図書が多数のため、当社を採択いたします。

続きまして、書写の教科用図書について審議採択を行います。意見のある方は発言をお願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 硬筆、毛筆、運び方のイメージが湧いてわかりやすいもの、楽しそうなもの、へえと思える情報があるものっていうことを大切にしたいと思って考えました。特に筆の運びの時に、各社キャラクターとかを使って、調査報告書にもありましたけれども、トン、スー、ピタとか、そういった音で、筆運びにイメージをさせているんですけども、その中で光村は、キャラクターの種類を絞って、その体の動きと音、オノマトペでそこに注目させて筆の運びをイメージさせているのがうまいなと私は感じました。

低学年の子どもが自分の体をそのキャラクターと一緒に動かせるようなイメージで、体で覚えることもできるのではないかというふうに感じました。

また、3年に「毛筆スタートブック」というふうにタイトルを出して、毛筆の秘密で、毛筆ならではのよさっていうところをアピールしているところが入っているのもいいのではないかなと思いました。

あと、東書、光村ともに右手、左手、同じように配慮されて道具の置き方とか筆の持ち方とかを同じ大きさに描かれているのも、配慮されていていいのではないかなと思いました。

以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

次、氏井委員。

○委員（氏井初枝） 3社とも色々工夫がされているんですけども、やはり光村のキャラクターの動きが、すごく子どもたちの心からすっと入っていくだろうなっていうことを感じました。

それから、あのスタートブックがページ数もたくさんあってとても丁寧な扱いになっているなっていうことを感じました。

色々迷っている中で、先ほど委員長さんがおっしゃった一言が決めてにつなが

りました。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に松本委員お願いいたします。

○委員（松本芳之） 特にありません。

○教育長（山下秀男） 承知しました。

眞如委員いかがですか。

○委員（眞如むつ子） 3社とも書写の学び方というのを具体的に書かれているので、私はやっぱりその出会いと、それから苦手な子への配慮っていうのはどうなっているかというところをすごく大事に思って見ておりました。

本当に色々やってあるんですけども、市民の方の御意見に、習字という言葉が入っていましたが、これは書写指導というねらいが多少違うのかなと。書写指導が、どれだけ子どもたちに必要なものかっていうところだと思うんですね。それを見ますと、やはり書写学習から日常生活、先ほどあの報告にもありましたけれども、お礼の手紙だったり、あるいは案内状だったりっていうのを、子どもたちが年間を通してやるんですけども、それをしっかり生かされる学習の場ができる、そういった意味で、とても工夫されているなと思いました。

同じ、国語と教科書と一緒にいいのかっていう質問に対して、今使っている、という、そういう話があったので、ああ、やっぱり現場はそういうところのかなという感想を持ちました。以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

市民意見では厳しいものもありましたけれども、ここで書写について、審議採択を無記名投票で決定していきたいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） はい。書写につきまして、東京書籍0票、教育出版0票、光村図書5票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。書写につきましては、光村図書が多数のため当社を採択いたします。

続きまして、社会の教科用図書について審議採択を行います。意見のある委員の方は発言をお願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 社会の教科書は本当にすごく迷いました。本当に各社内容が充実していて、資料もとても充実していて迷ったんですけども、4つのポイントで考えました。

1つ目は、見やすさ、見つけやすさ、見通しを持って学ぶ、流れがわかりやす

いもの。2つ目として、これからの学び方として、知識の積み込みにならずに、課題に対して自ら調べたり資料を読み取ったり、意見を出し合ったりっていう作業を通して考えることに重点が置かれているもの。3つ目としては、調べてみたい、知りたいと思わせるような、好奇心をくすぐるつかみのある導入や、資料が充実しているもの。4点目として、歴史の分野では、様々な歴史の解釈によって変化する可能性が高い分野なので、事実と断定する表現よりも、多角的に考えさせるような表現に配慮がされているもの。という4つのポイントで考えました。

特に、見やすさとはちょっと違うんですけども、見やすさ、見通しがしやすいっていう点では、東書と教育出版は、レイアウトとか、文字とか、あと社会科の学習の進め方などの配置など、見やすいなというふうに思いました。

で、教育出版は、特に社会科学習の進め方、タブレットを生かした社会科の学習の広げ方、社会科で使う見方、考え方、生活科や前の学年の振り返りなどが最初にまとめられていて、必要な時にすぐに見返せるという点が素晴らしいなというふうに思いました。

東書は、学習の流れが、つかむ、調べる、まとめる、生かすという展開が、教科書の中で、どこがそれになっているのかっていうのがとても見やすくなっているということと、あと、6年生が歴史編と政治国際編に分かれているのは、分厚くなりすぎないし、使いやすそうだなというふうに感じました。

2点目の、学習問題を立てて調べたり、話し合ったりして考えるっていうことに重点が置かれているというのは、3社とも、もちろんこれからの学習指導要領のこととして3社ともそういう構成になっているんですけども、教育出版は特にそこを大切にしている印象を受けました。そうですね、本文の解説が、多すぎず、凝縮されて、自ら調べるといようなことに重点が置かれているという印象がありました。

3点目の好奇心をくすぐる、つかみのある導入や資料が充実しているとか、歴史分野では多角的に考えさせるような表現に配慮がされているっていう点では、やはり教育出版が、私はそれに近いかないというふうに感じました。

知りたい、学びたいっていう好奇心をくすぐるっていうことにつながるかどうかかわかりませんが、教育出版の、それぞれの単元のタイトルが、「未来を支える食糧生産」とか「国土の自然とともに生きる」とか「災害から私たちを守る政治」というように、SDGsとの関連を想起させる、未来に向けて学んでいくんだっていうイメージのタイトルがあつてとてもいいというふうに思いました。

あと、ちょっと気になったのは、東書では、排他的経済水域と領土領海の地図が、一つの地図で見渡せなくて、二つの地図に分かれているんですけども、教育出版はそこが二つ、それが一つの地図にまとまっているので、そういった意味でも把握しやすいなというふうに感じました。

また領土に関わる記述でも、教育出版は平和的な解決に向けて粘り強く努力を続ける必要があるというふうに、ここの記述も丁寧にされているというふうに感じました。

あとは、色々あるんですけども、ちょっと違いを感じたのは、6年生の税について学ぶ位置の違いがありまして、東書は、税金の働きというのは、市の公共事業に関連づけて学ぶ中に位置づけられているんですけども、教育出版は、消

費税を代表として、国会で決める事項として位置づけられている、4社とも租税教室は紹介されているのは、昭島でも今実際に租税教室をやっていますので、とてもいいと思ったんですけども、この扱いの違いはどちらがよりいいのかというようなことでも考えたいなというふうに思いました。

細かいことでは、昭島市との関連という意味では、教育出版は農業に、横浜市都市農業が扱われていて、昭島市も都市農業ですので、そういった点では近いかな、共通点が多いというふうに感じましたし、6年の歴史では、五日市憲法の条文の一部が紹介されている点でも親しみを感じるかもしれないというふうに感じました。

細かい点もちょっとお話しさせていただきましたが、以上です。

○教育長（山下秀男） ほかがございますか。よろしいですか。

紅林委員に、相当、突っ込んで言っていただきましたので、それでは、社会の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） 社会につきましては、東京書籍3票、教育出版2票、日本文教社0票でございます。

○教育長（山下秀男） はい。ただいま結果の発表がありました。

社会につきましては、東京書籍が多数のため、当社を採択いたします。

続きまして、地図の投票に入りたいと思います。審議採択案に意見のある委員は発言をお願いいたします。

よろしいですか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 色づかいの違いとかの見やすさを感じました。あともう1点だけ。

前日も申し上げたんですけども、帝国書院は昭島市のところに「アキシマクジラ」って書いてあるんですね。そこはやはり、アキシマ子どもたちにとっては嬉しいんじゃないかなというふうに感じました。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。それでは地図の教科用図書につきまして無記名投票により決定をしたいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） はい。それでは、投票の結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） はい。地図につきましては、東京書籍0票、帝国書院5票でござ

ざいます。

○教育長（山下秀男） はい。ただいま、投票結果の発表がありました。地図につきましては帝国書院が多数のため当社を採択いたします。

続きまして、算数の教科書について審議採択を行います。意見がある委員は発言をお願いいたします。

松本委員。

○委員（松本芳之） カリキュラムの性格上、国語のような大きな違いがないので全体を通した見やすさ、理解しやすさという点から注目した2つについてお話しをします。

東京書籍はスタートブックがとても優れていると。これは委員の中からも一致した意見でありました。数が抽象であるということに絞って理解させるということ、これは非常に優れていると思います。生活も含めて、東京書籍は低学年、特に1年生の理解度を考慮して、児童にも教師にとっても痒いところに手が届くような丁寧の作りになっているというふうに考えます。

一方、もう一つは大日本図書なんですけれども、過不足なくよく考えられた内容でありましてレイアウトもすごくいいです。特に注目できるのは、プログラミングのところでした、題材も含めて非常に納得できる内容になっています。算数の特性をきちんと理解した上で作られている、そういう教科書だというふうに思います。低学年が東京書籍があるとすれば、私は、上級学年は大日本が望ましいというふうに理解しています。

以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

ほかございますか。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 話題に出なかったところ、ほかのことでちょっと私が注目したところがあるんですが、それは教科書の背表紙、それから裏表紙のところなんです。東京書籍だけ、「始めよう算数」とか「見つけよう算数」とか「考えると面白い」とかってそういう副タイトルみたいなものついているということ。それから裏表紙と表紙のところなんですけれども、3年生については、パティシエ、ケーキみたいなものが載っていたりして、それで裏表紙のほうにはパティシエのことが、算数とは関わりのあるようなことにつなげてなんですけれども、アーティストとか、折り紙作家とか建築家とかって、みんなこう算数に絡めて写真が出ていたりコメントが載っていたりして、それがなんかすごく、例えば算数がかもしたら嫌だって、なんか苦手だなんて思うような子も親しみを感じるような教科書なんじゃないかなっていうことを感じました。全然話題に出なかったことなんですけど、こういうのってというのは教科書を手にした子どもたちって、やっぱり影響があるかなっていうふうに考えました。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。
ほか、ございますか。眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 話題に入らなかったこと、パート2です。入門期なんですけれども、やっぱり算数との出会い。算数嫌いっていうのが、学年を上がるにつれて出てきてしまうんですけれども、やっぱり最初のこの入門期の配慮っていうのは、すごく大きいかんと思って見たんですけれども、東京書籍、それから大日本図書、これは特に東京書籍、A4版にすごいページ数、40ページ、もうノートにもなるし、作業台にもなるしという感じで、ものすごく子どもたち、1年生も、右左よくわかってない子もいる、そういう中で、指導するのにとってもいいんじゃないかなと。子どもたちのその思考をうまく捉えることができる、そして経験をうまく捉えることができるんじゃないかなと思って、すごく大胆だな、インパクトを強く感じました。で、そのところで、教科書が薄い分、2冊目はちょっと厚いんですけども、まあそのころはいいかなという、そういう思いで、とにかく入門期の最初のつくりが秀逸だと思いました。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。
算数は、つまりくとなかなか前に進まないっていうところがあるので、振り返りでね、振り返りやすさというのが1つの視点なのかなというふうに私は捉えております。
それでは、算数の教科用図書につきまして無記名投票により決定をいたします。記入をお願いいたします。
(投票用紙記入)

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） はい。算数につきましては、東京書籍が5票、他社は0票でございます。

○教育長（山下秀男） はい。投票結果の発表がありました。算数につきましては東京書籍が多数のため当社を採択いたします。
続きまして、理科の教科用図書ついて審議採択を行います。意見のある委員は発言をお願いいたします。
紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 理科も本当にすごく迷いまして、本当にどの社も様々な工夫がされていて素晴らしい教科書だというふうに感じました。
それとあと、やはり何か分野によって、もしかしてちょっとこう、ここここを足して、いいとこ取りしたいというような気持ちになるような、ここはいいんだけどここは、みたいな、そういうところがあって本当に迷いました。
着眼点として大事かなというふうに思ってみたところは、見やすさというのは共通ですけども、理科の特性として、実験観察の注意事項や手順が把握しやす

い紙面構成や表記、ということは見ました。それから、もう1つ、興味をひく導入、つかみのあるもの、で、これは市民の方からの御意見もありましたけれども、やっぱりつかめる授業というか、つかめるっていうことは、子どもたちがつかまれるっていうのは、やはり日常で目にする現象や体験から興味を持って、で、なぜだろう、どうしてこうなるのかな、わかりたい、知りたいっていう気持ちを引き出せるような導入、そして学んでわかったことが実生活のこんなところに生かされているんだなっていうことの驚きにつながるっていうような、そういった発展というようなものが、うまくできているものが、理科を学ぶわくわく感につながるんじゃないかと思って、そういうところを見ました。

最初の見やすさとか、流れの見通しを共有しやすいっていう点では、私は大日本と啓林館はすっきりしていて見やすい、メリハリがついているというふうに感じました。

学習の進め方というのが、各社冒頭にあるんですけども、それが特に大日本と啓林館は見やすいと思いました。

大日本は、「問題を見つけよう」からわかったことまでの各ステップが色分けされていて、それがやはりページにも反映されている。そして計画、理科の学び方の中に、予想・計画っていうところが、ステップがあるんですけども、これが大日本は3年生からしっかりこう明示されているという特徴がありました。

ほかは予想計画はちょっと小さくなっていたり、4年生になったら予想を大事にしようとか、5年生になったら計画を大事にしようみたいな会社もあったんですけども、まあ大日本は、もう3年生から計画、予想、計画っていうのははっきり位置づけられていて、そういうような習慣になっていくっていう点ではそれぞれにはっきり、3年生から意識づけしていくっていうのがいいのかなっていうふうに感じました。

あと啓林館の特徴としては、単元の初めに問題をつかむ場面の中に、思い出そうっていう確認があって、そこに既習事項とか、生活の中での体験を振り返らせる絵や写真や言葉が入っているのが、単元がただ書いてあるだけではなく、そういう工夫がされているのがわかりやすい、使いいんじゃないかなっていうふうに感じました。

2点目の実験、観察の注意事項や手順が把握しやすい紙面構成っていう点では、準備物や手順がわかりやすいのは、学校図書と教育出版かなと感じました。ちゃんと実験する際の注意事項、これしちやいけないみたいなことも、その実験のページに入っていることで、すぐ使いやすいのかなっていうふうに感じました。

大日本は、準備物は2次元コードで見えるようになっていて、実験の流れも動画で2次元コードコードから見られるようなんですけど、まだちょっと見られなかったもので、それがどんな感じになっているのか、ちょっと想像するんですけども、動画で見られるっていうのは確かにわかりやすいかなっていうふうには思いました。

あと、この「学習」っていうのが結構難しいところ、理解するのに多分難しいところだと思うんですけども、「てこの支点、力点、作用点」っていうのを見るところは、そこの表示が、これはわかりやすい、優れているなというふうに感じ

たのは、学校図書と啓林館でした。

細かく言うと、とても細かくなってしまうので、もうやめますけれども、最後に、導入、つかみってところで、単元導入の紙面が、大日本とか啓林館は、導入に見開き2ページを使って、現象の変化の前後とかそういうを見比べさせて考えさせる、こう大きく写真を使っていて、ひきつけられるというふうに感じました。

日常生活の写真から考えさせる導入ってというのは、やはりと子どもたちの興味をひくんじゃないかと思って、例えば物の燃え方と空気ってところでは、キャンプファイアーやキャンドルランタンとか、キャンプで火をおこすときの写真とか、そういうものがあると日常生活から思い起こさせていいんじゃないかなと。そういった工夫がされているのは、学校図書と教育出版、啓林館あたりは優れているというふうに思いました。

まとめから実生活につなげる工夫としては、大日本や啓林館は、理科のたまため箱とか、暮らしとリンクとか、そういったページが充実していて、大変理科好きな子どもが育つんじゃないかなってうか、理科好きな子はすごくワクワクするような教科書だなというふうに感じました。

以上です。

○教育長（山下秀男） ほかがございますか。
氏井委員。

○委員（氏井初枝） 紅林委員と重なる部分もございますので手短かに申し上げます。

私、教科書を見せていただいて、やっぱり大判で、2ページ使った導入のところ、あれってやっぱりすごくインパクトが強くて興味関心が、大人の私でもそられて、子どもだったらなおさらだろうなと思いました。

大型の教科書のデメリットがあったらちょっと考なくちゃいけないなと思ったんですが、先ほどのお答えですと、そういうことはないということだったので安心しました。

それから日常生活に生かすってことで、先ほど理科のたまため箱っていうお話が出ましたけど、私も同様のことを感じました。学んだことが日常生活の中でどんな風にこう生きているのかということは、すごく理科の学習で大事ではないかなというふうに思っているからです。

児童の発達段階っていうことで言いますと、大日本は「ここに注目」とか「何々のヒント」とかって、色々こう、きめ細やか、優しいっていう、そこら辺がすごく、誰にでもうまくこう学習の流れに乗っていくような工夫がされているところがいいなということを感じました。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。
ほかございますか

よろしいですか。それでは理科の教科用図書につきまして無記名投票により決定いたします。記入をお願いいたします。

(投票用紙記入)

- 教育長（山下秀男） それでは投票結果を事務局から報告願います。
- 指導課長（小林邦子） 理科につきましては、大日本図書5票、他社は0票でございました。
- 教育長（山下秀男） はい。ただいま投票結果の発表がありました。理科につきましては大日本図書が多数のため、当社を採択いたします。
続きまして、生活の教科用図書について審議採択を行います。意見のある委員の方は御発言お願いいたします。
紅林委員。
- 委員（紅林由紀子） 先ほど、調査員部会の先生からの御説明もありましたけれども、活動の中で生かせるというような、特徴にあった教科書がいいというふうに思いましたのと、あとやはり1年生のスタート時に負担にならない、そして楽しい、ワクワク感があるってというような、親しみやすさを感じるってという点で教科書を見ました。そういった中では、私はまず親しみやすさってというような点で、教育出版と光村図書は、絵本で子どもたちが大好きな絵本のキャラクターを中に使っているってという意味で、何かすごく親しみを感じるんじゃないかなというふうに思いました。
教育出版は、「絵本コンガラガっち」の「いぐら」が出てくるんですけども、それが迷路やはしごのイラストで、どのくらいわかったかなとか気持ちのレベルとかをそれで振り返るような工夫があったり、単元の初めに、ワクワクスイッチっていう、チャート式で自分の体験などの振り返り、そしてその自分に合ったこう学びのスタイルみたいなのを呼びかけるようなページがあって、学びを始めるイメージが持ちやすいついていう点でとても素晴らしいなっていうふうに思いました。
ドキドキをワクワクに変えていこうってというような呼び掛けがあって、1年生に寄り添う配慮があるというふうなことで、目次の単元構成が月ごとの活動で表示されていて、先生も子どもも月っていうことでも活動の見通しを持ちやすいのではないかなというふうに思いました。
あと、ここには野原図鑑ってというのは、植物や動物を写真を載せているところがありますけども、これが二次元コードでデジタル図鑑に飛んで、このデジタル図鑑はかなり多くの植物や動物を載せていて情動的にも詳しくて、生き物好きな子どもたちにとってはとてもワクワクするものではないかなというふうに思いました。
あと授業風景のイメージイラストには、板書例を載っていて、経験の浅い先生方のもしかしてヒントになるのかなというふうにも思いました。
あと、光村図書は同じように子どもたちが大好きな絵本作家のヨシタケシンスケさんのコラムが色々載っていて、こんなこともあるかもねってということで、失敗したり、うまくいかない、悩んじゃったりみたいな子どもたちに寄り添うイラ

ストがたくさんあって、安心して学べる工夫があるんじゃないかなというふうに思いました。

あと野菜の栽培の説明がとても丁寧で、困った時とかうまくいかない時どうするかの説明も詳しくあり、そういうことに慣れていない先生方にも子どもにも安心感を与えるのではないかなと。

あと、先ほどの先生から報告でもありましたけれども、差し込みの季節の生物カードは、活動に携帯できるということなのでとても便利そうだなというふうに思ってどの社も素晴らしいんですけども、この2社が、特に親しみやすさという点でも点から優れているなというふうに感じました。

○教育長（山下秀男） はい、ほかございますか。

眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 生活科については、本当に子どもたちの生き生きと活動する姿がまず1番かなと思うんですけども、この全部の出版会社、そういうところを本当によく考えて作ってくださっていると思います。

その中で、1年生って言えばアサガオの観察っていうのがあるんですけども、その紙面の作り方もそれぞれ工夫があります。で、アサガオがメインなんだけれども、ほかの種とか、種から始まります、全部。多いところは8個かな、並べて、一緒にこう、植物が育つ様子が見えるように。それから折り方でその流れが見るようにしてあったりとか、本当に工夫されているなと思って、なかなかいいなと思いました。

で、その中で1つだけ、1年生は学校探検というのが入っていて、当然時数確保になっているんですけど、2年生については1年生と一緒に活動する場面というのがあるわけなんですね。でもこの生活科の2年生からも見ると、1年生との交流の部分がちょっと入れてあるところ、入れてないところってあるんです。で、入れてあるのは、例えばこれは教育出版ですかね。「ようこそ1年生」って入っています。それから啓林館は「1年生をむかえよう」ってなっているので、ここで計画を立てられると思うんです。ほかのはそこに触れていないので、当然できることではあるでしょうけれども、そういうところは、でもあったほうがいいかなというので、私はその2社についてはいいと思いました。以上です。

○教育長（山下秀男） ほか、ございますか。

それでは、生活の教科用図書につきまして無記名投票により決定をいたします。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） はい。それでは投票結果について事務局より報告願います。

○指導課長（小林邦子） はい。生活につきましては、教育出版が3票、光村図書が2票、他社は0票でございました。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。生活につきましては、教

育出版が多数のため当社を採択いたします。

続きまして音楽の教科書について審議採択を行います。意見のある委員は発言をお願いいたします。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 楽器についてでございます。1年生は鍵盤ハーモニカ、3年生がリコーダーを初めて扱う学年になるんですけども、スモールステップでとても丁寧な扱いが表現をされているなっていうことを感じました。リコーダーの吹き口のところ、ヘッドのところだけ使って演奏するとか、あとはトウトウトウって舌を使ってタンギングの演奏などを、こう繰り返し繰り返しやっていくっていうところがそういうスモールステップで、全員がちゃんとこう楽器に楽しめるようになって工夫されているところがすごく素晴らしいなっていうことを思いました。

それからオーケストラ、6年生の教科書なんですけど、オーケストラの扱いをするところがあるんですけども、教芸のほうではオーケストラ全体の写真もすごく大きくて全体の様子がよくわかる。それから個々の楽器のものも教出のほうではイラストで書かれていて、それで教芸の方では演奏者が吹いているような写真が使われている。それから楽器の配置なども、わかりやすいのと、ちょっとというところがあったなっていうことを感じました。以上でございます。

○教育長（山下秀男） 紅林委員。

○委員（紅林由紀子） はい。楽器のスモールステップでわかりやすい説明っていうのはもちろんそうだと思うんですけども、同じように1年の歌う時の口の開け方の表現がとても具体的で、上の奥歯と下の奥歯が少し離れるようにというふうな表現がされていて、ああ確かにそうすると口が大きく開くなと思ったんですけども、このように、教育芸術社ですけども、具体的な表現というのがされている点素晴らしいと思いました。

あともう1点、6年生なんですけども著作権についての説明が見開きにあります。中学生で詳しくやると思うんですけども、こういった配慮も今の子どもたちはすごく色々な音楽をユーチューブとかいろんなところでも扱うことも多いので、こういった時期に著作権ということをしっかり抑えてるというのも素晴らしいなというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） ほかございますか。

眞如委員。

○委員（眞如むつ子） 音楽科については、専科の授業が主だと思うんですけども、低学年についてはあまり音楽が得意でない、タンギングをやらなきゃいけないというところで、この教芸のほうの学習内容に応じた常時活動のアイデアが掲載されており、次の学習にもつなげやすいとか色々書いてあるんですけども、やはりそういった配慮があると、ああ使いやすいくないかな、特に若い教員とか、それから音

楽があまり得意でない教員の低学年参入にはありがたいことかなと思います。

一般的に明るいのでいいなと思うのと、あと教科書、全教科見て、どうしてこんなに厚くなってしまったんだろうというすごい率直な感想を持っているんですが、音楽については、もう昔ながらにこう同じような厚さなのでほっとするところなんです。薄ければいいと思うのではありませんが、やっぱり音楽についてはそういう感想を持ちました。はい。

○教育長（山下秀男） はい。ほかございますか。

よろしいですか。それでは音楽の教科用図書につきまして無記名投票により決定をいたします。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） 音楽につきましては教育芸術社5票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。音楽につきましては教育芸術社が多数のため当社を採択いたします。

続きまして図画工作の教科用図書について審議採択を行います。意見のある委員の方は発言をお願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 2社とも本当に作品が素晴らしく、楽しさにあふれていて、創作活動の材料が多様で、本当にイメージが広がる素晴らしい教科書だなというふうに思いましたし、調査報告書からも、2社とも大切な点をしっかり抑えられていることがわかりました。

特に私は見やすさ、わかりやすさ、イメージの広がりをお願いしている、鑑賞作品の綺麗さという点を大切に思いましたが、見やすさという点では、2社とも左上にその単元の項目の見出しが出ていますけれども、タイトルが出ていますけれども、日本文教出版はその部分がタイトルデザインはそれぞれテーマに合わせて色々デザインが異なっていますけれども、基本的に白地というところが統一されていて、めあての3つの要素の配置が統一されていて、その部分が統一されていることで、それぞれの毎時のその時間の活動のイメージに合わせてデザインになりながら統一されていて、スッキリして見やすいついところが素晴らしいなというふうに思いました。

特にその点を感じました。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかございますか。

よろしいですか。それでは図画工作の教科用図書につきまして無記名投票により決定をいたします。お願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） はい。それでは投票の結果について、事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） 図画工作につきましては、日本文教出版社5票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。図画工作につきましては日本文教出版が多数のため当社を採択いたします。

続きまして、家庭の教科用図書について審議採択を行います。意見のある委員は発言をお願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 家庭科では、見やすさ、特に実習がある教科なので、手順、準備物、安全上の注意事項などがわかりやすく記されているかっていうこと。今日的な課題情報が取り上げられていくかっていうことという2点について特に大事に見ました。見やすさっていう点では、東書のほうが見やすいかなというふうに感じました。

報告書にもありましたけれども、冒頭の目次のページに家庭科の観点から今までの成長の振り返り、これから2年間で学ぶ内容がロードマップのように記載されて、振り返り、見通しが持ちやすいっていうのと、下の段にも目次があるので、それとつなげてみるのにもわかりやすいかなというふうに思いました。

あと、単元の初めに、ほかの教科との関わりが明示されているのも、関連づけて意識して学べるのは素晴らしいというふうに思いました。

あと、報告書の中にもありましたけれども、食品グループ分けの表がグループ用紙の裏にあるっていうのは、すぐにめくって便利だというふうに思います。

あと、調理実習、裁縫の説明も、活動の流れに通し番号が振られていて、この通し番号を振るということで、実習の中で何番のってというような指示もわかりやすいのではないかなというふうに思いました。

2点目の今日的な課題、情報が取り上げられているかっていう点で、2社とも情報は充実しているんですけども、消費っていう面で、私は開隆堂のほうが記述に優れているかなというふうに感じました。生活を支える物やお金ということなので、開隆堂は買うか買わないか考えてみようをチャート式で考えさせて、あと特に買い物で困った時にどうすればいいっていうページがあって、ケーススタディーをしたり、消費生活相談員のインタビューがあって、消費生活センターの紹介があったりというようなことで、今、消費形態の色々な多様化に伴い、増えてきている消費トラブルっていうのは、もうどんどん低年齢化していると思うので、そういうところにも配慮されているなっていうふうに感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかございますか。

よろしいですか。それでは家庭の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表を事務局からお願いいたします。

○指導課長（小林邦子） 家庭科につきましては、東京書籍4票、開隆堂1票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。家庭につきましては、東京書籍が多数のため当社を採択いたします。

続きまして、体育の教科用図書について審議採択を行います。意見のある委員は発言をお願いいたします。

いかがですか。よろしいですか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 見やすさということと、あと授業時数を考えて、分量が適切で、要点が見やすく、まとめやすいものということと、あと体の発育に関する単元で、個人差が大きい多感な時期を迎える児童が学ぶことへの配慮がされているものというようなことを大切に考えてみたんですけども、本当に悩みまして、私はそういった点では、見やすさとか分量とか、あと入りやすさっていう点では光文書院が導入の漫画の点とか分量的にもいいのかなっていうふうに見やすさっていう印象を受けました。

なんですけれども、東書も非常に流れがつかみやすさっていう点ではいいと思いましたが、まとめの部分に、括弧で重要語句を記入するっていう形でのまとめと自分の考えをフリーで記述するっていうふうな形になっているんですけども、授業時間があんまりない中では、簡潔に重要語句を書き込むことでまとめになるっていうようなのは、まとめやすくいいのではないかなというふうにも思いました。

2点目のその体の発力に関する単元っていう点では、先ほど委員の先生からありましたように、当初は2次元コードで見られるっていうような点でよく配慮されているなというふうに思いました。光文も、そういうところが見られるところがあつたと思いますので、そこは光文でもいいかなというふうに思いました。

市民の方からの御意見に、そういった男女の個人差が大きい、あるいは今言われている性自認の違いとかそういうことも含めた時に、そういったことも配慮されているっていう意味では、女子は、男子は、っていう思春期の体の変化の表現には個人差があるってことは全社ありましたけれども、一般にというふうに加らされているのは東書と光文と学研でしたし、あと発毛がほとんど現れない人や多い人もいるっていうような一文が加えられているのは東書と光文でした。

という点から、やはりこの2社がそういった点でもよく配慮されているなというふうに思いました。

そのほか、スマホ、ネット依存症のこととか、あとは、光文、学研、東書、大修館は触れていて、ちゃんとおさえられていましたし、光文は発展ですけども、スポーツ障害、よく野球とかサッカーとか一生懸命やるお子さんが今、多いので、そういったことに対しても触れているところはいいんじゃないかなというふうに感じています。

○教育長（山下秀男） ほかございますか。

よろしいですか。それでは体育保健領域の教科用図書につきまして無記名投票により決定をいたしたいと思えます。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） 体育につきましては東京書籍3票、光文書院2票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。体育につきましては東京書籍が多数のため当社を採択いたします。

続きまして、英語の教科用図書について審議採択を行います。意見のある委員は発言をお願いいたします。

松本委員。

○委員（松本芳之） テキスト自体は、各社それぞれ内容が決まっていますから、そんなに違いはないですが、先ほどの部会にも聞きましたが、きちんとした復習サポートができていくかという視点で、QRコードからのネット教材に注目して、かなり丁寧に2つ、3つ聞き比べました。英語っていうのはそれ以外の教科とちょっと性質が違いますので、このQRの重要度が非常に高いんですね。その結果、正直申し上げますと満足できるものは1つもありませんでした。で、1番悪いのはユーザーインターフェースが悪いというのが私の印象であります。英語は特に数が多いので、ユーザービリティが大切でここにいきたいっていうのがぱっと示されるような形になってない。つまりアクセスするとメニューに飛んで、そこから掘り起こしていくというふうな作りになっていて、これはどういうお考えなのかというのがこれは全社に共通している。その中で光村はシンプルな作りなので比較的扱いやすい形になっていたと言えます。

それから、こっちがもっと重要で最も悪い点なんですけども、児童が繰り返し聞いているという形になっていないんですね。もし間違っていたらすいませんなんですけど、私、かなり丁寧に聞いたつもりなんですけども、これだけスピーキングが重視されるようになっていくのに、ほとんど文章を連続して読むというヒアリングになっています。2つの文章をこう続けていってしまう、それは悪いと。そうじゃなくてその中で唯一、かなりまともな形だったのは東書のニューホライズンです。これは、一文を読み、児童が繰り返す時間を取って、次の文章を出して、でいくというのが、唯一この会社だけできていました。非常に高く評価できる点ですね。

それから、リピートボタンがあって、それを押していくと繰り返しその練習ができるという形になっています。まだ完全ではないなんですけども、ここにこれを入れておいてほしいっていうのはあるんですが、基本ができていたという点は高く評価できます。

一方、三省堂のクラウンっていうのは、まだ工事中で、未完成で、そこがどう

出てくるのかというのわからないんですね。最後のワードブックのところをそれやってくれるのかなというところはあるんですが、なんとも言えません。正しい評価はできないんです。ただ注目できる点はあるって、さすがにクラウンだと思った点があります。それはヒアリングの形なんですけども、使う2つの文章を長い文章の一部として聞かせていくと。つまりテキストの中に当該の文章を置く。それでヒアリングという形を作っている点が、さすがに優れている。ただ、さっき申し上げました、その聞いて、時間を取って、繰り返しの時間を取る形にできるかどうか分からないので、ちょっとペンディングにしておきたいと思います。

以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほかございますか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） はい。そうですね、私もやはり、先ほどの先生方の御説明にもありましたけれども、やはり苦手意識を、この段階で持たせたくないという点から見ました。本当にどの社も楽しそうに、そして音声とかも動画も充実していて楽しそうではあるんですけども、やはり分量っていう点からもう考える時に、聞く、話す、特に書くっていうこと活動の量から、私は三省堂か光村が多すぎず少なすぎず、昭島の子どもたちに適しているのではないかなというふうに感じました。

光村は、特に最初に英語の学び方とか、コミュニケーションを取る上で大切なことというページがあり、5年ではさあ行こう英語の世界へ、英語で世界へ、6年はやってみよう、間違いを恐れずに、というふうに、もう本当、入口なんだよって肩の力を抜いてってというようなメッセージがあって、そういうところに重点を、大切にしているんじゃないかなというふうに思いました。

最初の、5年の1番最初の「レッツスタート」というところでは、3・4年生で外国語活動でやった振り返り、簡単なフレーズからアルファベット、そしてそれはフォニックスに置き換えてフォニックスの練習もできる。カニックユニットでは可愛いアニメーションを見る、見て最初に話すような流れをつかんで、そこに場面設定は日本語で書かれているので理解しやすいっていうところに入りやすいかなと。であとキーフレーズの場面を見る、聞く、チャートして、そしてキーフレーズの練習を話してみる、書いてみるっていう流れになっているんですけども、1つずつのボリュームが少ない、多くないので、気軽にできる、気軽にそして何回もできるっていう、そういう繰り返しが授業の中でも取れるんじゃないかなっていうふうに感じて、そういうところが光村のいいところだなと思いました。

1番最後に、オールアバウトミーって、先ほど先生から御説明ありましたけれども、各ユニットの終了ごとに学んだことを元に生かして1年間で完成する楽しい自己紹介やシートがあるっていうところも達成感が得られるってところで、よく工夫されているというふうに感じました。

三省堂は分量的にととてもいいと思いましたし、レッスンではいいんですけど

も、やはり今、松本委員からもありましたけれども、目次に飛んでしまうっていうところはちょっと使いづらくなっていうふうに思いました。以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、英語の教科用図書につきまして無記名投票により決定をしていきたいと思えます。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） はい。それでは調査結果を報告願います。

○指導課長（小林邦子） 外国語につきましては、三省堂4票、光村図書1票でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。英語につきましては三省堂が多数のため当社を採択いたします。

続きまして道徳の教科用図書について審議採択を行います。意見の委員は発言をお願いいたします。

いかがですか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 先ほど委員の先生から報告いただきましたように、道徳っていうのは、やはり心を耕す時間だというふうに思いますので、かなり読んだり書いたり、話し合ったりっていう、言葉に関係する教科でもあるので、そういった意味で国語の得意不得意にあまり左右されず、色々な子どもたちが自分の考えを話したり書いたりというふうに、活動に参加できるっていうことに配慮があるっていうことが大事なのではないかなということと、あと多角的な考え方を知ることができる広げることができるっていう点が大事なのではないかというふうに考えております。

そういった点で、振り返りなどの書き込む量が多いものは、私は書くことにたくさん頭を使ってしまって、考えることに時間は取れないんじゃないかなっていうふうに思うので、あまり書く量が多いものは避けたいというふうに考えました。そういった意味では、東書は、学年は学期末に書くっていうような形で、毎回書くようなことはしていないのと、あと三村は低学年の時はシールを貼るだけみたいなふうに、非常に負担が軽いついいうので、話し合うこと考えることに集中できるんじゃないかなというふうに思いました。東書はあと心情絵というのがありましたけれども、そういったツールなどで気持ちを表すっていうような工夫もされていていいんじゃないかと思えます。

特に、東書はデジタルコンテンツが充実していて、教材を朗読したりスライドショーにしたりっていうようなことで、そういうことで何回も聞きたかったら聞けるっていうような、読みが苦手でも読み返したり、条件イメージを膨らませたりすることができるっていうところで素晴らしいというふうに感じました。

それから三村は、道徳で使う言葉っていうところは、各学年のページにあり、考えをまとめるとき、気持ちを伝え合う時などの言い方や、いろんな気持ちを表す言葉の例なんて、自分の考えをまとめる時ってやっぱりどういことがその言葉、適しているのかどうい言葉を使ったらいいのかっていうのは語彙力がないとやっぱり膨らんでいかないと思うので、そういう点でそういうページが設けられているのはよく配慮されていて素晴らしいなというふうに思いました。

あと多面的な、多角的な考えが広がるようになっていうような工夫があるっていう点では、調査書のほうに報告書のほうに、光村にはそういった記述が多くか記されているということを感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） はい。ほかにございますか。よろしいですか。
氏井委員。

○委員（氏井初枝） 道徳は他の教科に比べて家庭の教育力っていうか、家庭もすごく大切になってくるって考えているんですけども、裏表紙に、出版会社によっては、保護者にというようなコメントがたくさん書かれているところと、少し書かれているところと全然触れてないところとありました。

そういう中では、東書が1番丁寧に保護者に訴えるっていうか、メッセージを発しているところで、それで心の力持ちを目指してっていうことで、学年に応じてなんかその細やかに載っているところが家庭との、一緒に取り組んでいきましようっていう姿勢が見られるところがすごく素晴らしいなっていうことを感じました。

それから、先ほど部会の経過報告の中で話題に出ましたけども、東書は2種類の発問がされていて、クラスの子どもたちの状況に応じて色々選択できるっていうところがいいことと、あと今、紅林委員の方からも出ましたけれども、心の動きをその心情絵とかのそういうツール、あれは切り取って実際に色で変化をつけられるようになってるものなんですけど、そういうのがあるところが工夫されているなということを感じました。以上でございます。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。
ほかにございますか。

それでは道徳の教科用図書につきまして無記名投票により決定していきたいと思ひます。記入をお願いいたします。

（投票用紙記入）

○教育長（山下秀男） 投票結果について事務局から報告をお願いします。

○指導課長（小林邦子） 道徳につきましては、東京書籍3票、光村図書2票でございませう。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。道徳につきましては東京書籍が多数のため当社を採択いたします。

小学校の教科書の採択につきましては全ての種目の採択が終了いたしましたので改めて採択結果を事務局から報告願います。

○指導課長（小林邦子） それでは、書名、発行社名の順に御報告いたします。

国語は、「国語」、光村図書出版株式会社。

書写は、「書写」、光村図書出版株式会社。

社会は、「新しい社会」、東京書籍株式会社。

地図は、「楽しく学ぶ小学生の地図帳」、株式会社帝国書院。

算数は、「新しい算数」、東京書籍株式会社。

理科は、「楽しい理科」、大日本図書株式会社。

生活は、「生活」、教育出版株式会社。

音楽は、「小学生の音楽」、株式会社教育芸術社。

図画工作は、「図画工作」、日本文教出版株式会社。

家庭は、「新しい家庭」、東京書籍株式会社。

体育は、「新しい保健」、東京書籍株式会社。

外国語は、「クラウンジュニア」、株式会社三省堂。

特別の教科道徳は、「新しい道徳」、東京書籍株式会社。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。令和6年度に昭島市立小学校で使用する教科用図書につきましては、ただいまの事務局の報告のとおり採択をいたします。

次に特別支援学級で使用する教科用図書の採択を行います。特別支援学級設置校の各校長、主任教諭から説明がありましたとおり、令和6年度に小中学校の特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、一覧表に掲載しているものを採択することに御異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） 御異議なしと認め、令和6年度に小中学校の特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、本議案の参考資料に示されております教科用図書を採択することに決しました。

最後に令和6年度において昭島市立中学校で使用する教科用図書につきましては、令和3年度使用昭島市立中学校教科用図書選定資料作成委員会による調査結果報告書に基づき採択をした各教科用図書を令和6年度も継続して使用することに御異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） 異議なしと認め、令和6年度において特別支援学級を除く中学校で使用する教科用図書につきましては、令和5年度に使用している教科用図書と同じものを使用することに決しました。

以上で議案第17号の審議を終わります。大変お疲れ様でございました。

本日予定をいたしました議事につきましては以上となります。

なお、ここで退出される校長の皆様におかれましては後方向かって左側の出入り口より御退出くださいますようお願いいたします。

退出の際、議案第 17 号参考資料につきましては回収をさせていただきますので御協力をお願いいたします。

次に、日程 6、その他に入ります。ここまで全体を通して委員の皆様から御意見、御質問などがあれば発言をお願いいたします。

よろしいですか。特にないようですので、最後に、次回の教育委員会の日程について、事務局より説明をお願いします。

○教育総務課長（野口明彦） 次回の、令和 5 年第 9 回教育委員会定例会につきましては、令和 5 年 9 月 14 日、木曜日、午後 2 時 30 分から市役所庁議室において開催いたします。

○教育長（山下秀男） 次回の本定例会につきましては、9 月 14 日の木曜日、午後 2 時 30 分から市役所庁議室において開催をいたしますので、よろしくをお願いいたします。

以上で本日の日程はすべて終了いたしましたので、これをもちまして、令和 5 年昭島市教育委員会第 8 回定例会を閉会といたします。本日はありがとうございました。長時間にわたり本当にありがとうございました。

以上

年 月 日

署 名 委 員

5 番 委 員

1 番 委 員

調 整 担 当